

平成 27 年第 4 回糸魚川市議会定例会会議録 第 2 号

平成 27 年 9 月 4 日（金曜日）

議事日程第 2 号

平成 27 年 9 月 4 日（金曜日）

午前 10 時 00 分 開議

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 一般質問

応招議員 19 名

+

出席議員 19 名

1 番	吉	川	慶	一	君	2 番	笠	原	幸	江	君
3 番	斉	木		勇	君	4 番	渡	辺	重	雄	君
5 番	倉	又		稔	君	6 番	保	坂		悟	君
7 番	田	中	立	一	君	8 番	古	川		昇	君
9 番	中	村		実	君	10 番	大	滝		豊	君
11 番	高	澤		公	君	12 番	伊	藤	文	博	君
13 番	田	原		実	君	15 番	吉	岡	静	夫	君
16 番	新	保	峰	孝	君	17 番	五	十	嵐	健	一
18 番	松	尾	徹	郎	君	19 番	樋	口	英	一	君
20 番	古	畑	浩	一	君						

欠席議員 0 名

説明のため出席した者の職氏名

+

市	長	米田	徹君	副市	長	織田	義夫君
総務部	長	金子	裕彦君	市民部	長	田原	秀夫君
産業部	長	斉藤	隆一君	総務課	長	岩崎	良之君
企画財政課	長	藤田	年明君	定住促進課	長	渡辺	勇君
能生事務所	長	原	郁夫君	青海事務所	長	大瀬	信明君
市民課	長	池田	正吾君	環境生活課	長	五十嵐	久英君
福祉事務所	長	加藤	美也子君	健康増進課	長	山本	将世君
交流観光課	長	渡辺	成剛君	商工農林水産課	長	斉藤	孝君
建設課	長	串橋	秀樹君	会計管理者		横田	靖彦君
ガス水道局長		清水	保雄君	会計課長兼務			
教育長		竹田	正光君	消防長		大滝	正史君
教育委員会こども教育課長		山本	修君	教育次長 教育委員会こども課長兼務 教育委員会生涯学習課長 中央公民館長兼務 市民図書館長兼務		竹之内	豊君
教育委員会文化振興課長 歴史民俗資料館長兼務 長者ヶ原考古館長兼務		磯野	茂君	監査委員事務局	長	森	正人君

事務局出席職員

+

+

局	長	小林	武夫君	次	長	松木	靖君
係	長	室橋	淳次君				

午前１０時００分 開議

○議長（倉又 稔君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（倉又 稔君）

日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、７番、田中立一議員、１７番、五十嵐健一郎議員を指名いたします。

+

日程第２．一 般 質 問

○議長（倉又 稔君）

日程第２、一般質問を行います。

発言通告者は１２人ですが、議事の都合により本日５人、７日５人、８日２人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き１人３０分であります。

所定の時間内に終わるよう質問・答弁とも簡潔に、要領よくお願いいたします。

また、質問は通告の範囲内にとどめるようにご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

笠原幸江議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。〔２番 笠原幸江君登壇〕

○２番（笠原幸江君）

おはようございます。

創生クラブ、笠原幸江です。

１回目の質問をさせていただきます。

１、「ジオの食材を食べろう」２０・１０・０運動の検証と課題について。

２０・１０・０運動は、市民にとってどちらかと言えば理解度が低く、「生ごみ」の減量に効果を上げているか疑問に感じているところです。

当市は、平成２３年に策定したごみ処理基本計画の中で「『もったいない』の心１０か条」を定めており、平成２７年度には１日一人当たりのごみ総排出量を８９０ｇにするため、平成２６年３月から食べ残しをゼロにすることを目標とし、ごみの減量化を推進しています。２０・１０・０運動もその一環と理解しています。

また、生ごみ処理機設置費補助金制度にも力を入れており、平成２５年度までに５７５台を購入され、多くの市民からごみの減量に協力をいただいているところです。

私は、平成１９年９月定例会、平成２５年１２月定例会に「ごみの減量化について」を一般質問しており、今回で３回目となりますが、今後、次期ごみ焼却処理施設整備の計画が検討されることから、ごみの減量化は当市にとって喫緊の課題であり、人口減や高齢化に伴う対応とごみの減量化をさらに進めるための観点から、以下の項目について伺います。

(１) ２０・１０・０運動を開始して以来、市民の反応と減量の効果はいかがか。

(２) 生ごみ処理機の現状はいかがか。

(３) ごみ処理に係る一人当たりの年間経費を合併後の平成２６年までどのように分析しているか。

(４) 高齢者への分別周知について。

(５) ごみ減量のための分別方法と次期ごみ焼却処理施設について。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

笠原議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、啓発用に作成いたしましたコースターが好評で、増刷を行い対応いたしております。

平成26年度のごみの総排出量は、前年度と比べ2.7%の減少となっております。ごみ減少効果は出ているものと思っております。

2点目につきましては、合併から平成26年度までに725台の購入助成を行っております。

3点目につきましては、1人当たりのごみ排出量は年々減っておりますが、1人当たりのごみ処理経費は平成22年度から増加傾向となっており、増加の要因といたしましては、運転管理委託料の見直しなどによるものと分析いたしております。

4点目につきましては、地区などでごみの分別説明会を実施いたしております。

5点目につきましては、現在、次期ごみ焼却施設の基本設計中であり、ごみの排出見込み量に合わせた適正な施設規模や減量、分別方法などによって総合的に検討を進めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

ありがとうございました。

2回目の質問をさせていただきます。

なぜ私がこのように質問しましたかと申しますと、実は20・10・0運動、これは市民の皆さんにとってはまだまだ理解が薄い、低い。それから集合的に飲食、大きな食事をする場所において、これが使われてないという現状を見てきました。大変これが今、市長は有効に使われているということなんですけれども、私は少し不満を持っております。糸魚川市がこれを一生懸命に進めようとして、皆さんにお願いしているにもかかわらず、しっかりとこれが浸透していないというのが、現状ではないかと思っております。

ところで開始したとき、スタートしたとき、このコースターの配布先はどのように周知されたか聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

おはようございます。

20・10・0運動がスタートしたときにつきましては、市内飲食店へのコースターとともに案内状を送付するとともに、あと商工会議所、商工会へ配布依頼をするとともに、この20・10・0運動の趣旨とともに各加盟店等への配布もあわせてお願いをしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

商工会議所、商工会、本当に協力していただかなきゃいけない団体だと私も思っておりますが、実は市長、先ほど答弁の中に増刷もしているってということなんですが、わかる範囲でいいんですが、どれぐらいの枚数を印刷されておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

当初、コースター、平成26年3月に1万枚を作成いたしました。その後、平成26年11月、それと平成27年9月、今つい最近でございますが、それぞれ3,000枚ずつ増刷をさせていただきました。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

ただ、20・10・0運動と言われても何のことというのが、今、大方まだ市民の方が、それ何というのが普通なんですが、インターネットのホームページなんかでも見ましても、担当課の方が、こういう形のものをしっかりとつくっていただいて、その会場の幹事さんにこの手順でやってください。当初のうちは、皆さん一生懸命取り組んだ時点ではよかったんですが、昨年、あるいは集合で集まって飲食するときには、実はこのコースターが使われてないんですよ。

何が使われてるかと言うと、皆さんもご存じだと思いますが、糸魚川市地酒の魅力発信実行委員会、商工会議所が事務局になっているんですが、このコースターがとっても多く使われております。行きたんに、私はショックを受けながら帰ってくるんですけども、こちらの裏面には、地酒で乾杯宣言のまちなんだよということもしっかりうたわれてまして、両方、糸魚川市が進めようとしているこのものを、こちらの地酒で乾杯、これは銘柄、製造会社も入ってます。それから裏面のほうには、私たちはこういうことでやってます。私はこの中に、糸魚川市が進めている20・10・0運動を推進してますとか、応援してますというちょっと活字が踊っていれば、私もそうだな、一体感と一緒にごみの減量に取り組みましょうという姿勢がおうかがいできるんですが、残念なことに糸魚川市は、それを両面に刷って進めているにもかかわらず、そういう現状が本当に多いです。

+

それはとっても残念で、それをやったからって、すぐごみが減量になるわけではないんですけども、一緒にやりましょうといったところの気持ちがばらばらでは、何をやっても私たちは私たち、市にお願いするときは、おねだりすればいいだろうというような考え方では、これから何事の取り組みにも、それはあまりいい状態ではないんじゃないかと思っているんです。

ところで、糸魚川市が直接関係している能生にあります権現荘、能生事務所長にお伺いしますが、どちらを使っていますか。どちらを主に使っているのでしょうか、お聞かせ願いたいです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

お答えいたします。

今、笠原議員がお見せいただきました地酒で乾杯のほうは、数としては多いですね。今のストックは、それを使っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

おかしいじゃないですか。市内の商店の、あるいは飲食店の人が、こちらを多くを使っているというのであれば、まあこの人たちも一生懸命にお酒の消費活動に応援しなきゃいけないという気持ちはあるかもしれないけれども、当市の能生事務所の管轄の場所で、こちらが多いというのはなぜですか、何でこっち使わないんですか。あそこは全国的にも、いろんなところからお客様がおいでになる、宴会も多い、これは何で使わないんですか。その指導はしてらっしゃるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

これは私のほうの指導不足といえますが、手落ちの部分がありますので、今後はそちらの20・10・0運動のプリントしたものを積極的に使っていきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

能生事務所長の指導が悪いということじゃないんですよ。確かに今、議場にいるのは能生事務所長ですけども、支配人ですよ、総支配人。この方が意識を持ってやらなければ、現場の担当、トップの方がやる気がなかったら、いくら指導してもだめなんですよ。私、能生事務所長を責めてはおりませんが、そこの特に権現荘というのは管轄は能生事務所さんでしょう。これを最初から使わないでどうするんですか。じゃあ地酒で乾杯宣言だけを使って、これはじゃあどこから手に入れているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

商工会さんのほうから紹介をいただいていると思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

いみじくも地酒で乾杯、それいいですよ。ここにも書いてあるんです。ここには各事業所の名前が載っているけど、こちらには載ってないんですけども、これ意識の問題なんですよ。だから当市は、市が進めているものに協力しますよということをはっきり言って、これご遠慮しますということは何で言えなかったんですか。本当にせつないですよ、いろんなところでほとんどこれです。

ちょっと調べてみたら、糸魚川市の窓口まで取りにくるの大変なんですよ。だからもしこれが商工会議所に置いてあれば、近くのところに飛んで行けるし、できたらこれを庁内だけじゃなくて、出先機関にも置いていただけないでしょうかという話があるんですが、どのように考えます、それもやってみたいと思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

笠原議員ご提案のとおり、今回、増刷した分を含め、両事務所のほうへ配置をさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

それで、この実行委員会に補助金が出ております。この補助金は3年間とお聞きしているんですけど、間違いないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

地酒の魅力実行委員会は、3年間ということで補助金を出したいというお話を、今現在させていただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

+

笠原議員。

○ 2 番（笠原幸江君）

ちょうど平成 27 年度で、その 3 年間の補助金が終わるとお聞きしておりますが、今後、印刷するときに、この糸魚川市地酒の魅力発信実行委員会が平成 28 年度も続くことを希望しておりますけれども、印刷かけるときに、ここの実行委員会が今後、自主自立でやっていくかどうかも確認した上で、商工会議所の事務局と一緒に相談していただいて、お互いに整合性を持たせるようなコースターに進められるような検討をしていただきたいと思いますと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○ 環境生活課長（五十嵐久英君）

新しいコースターを作成するに当たって、今後、そちらの実行委員会は実行委員会の組織の目的があって、その目的達成のためにそういうコースターをつくってるという事情もございますので、その辺を含み、今後また市で今つくっているものに統一できるかどうかを、その実行委員会のほうと協議をしてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○ 2 番（笠原幸江君）

それから、そういう反面もう 1 つ声がありまして、紙コースターでなくて何回も使えるようなコースターも研究してもらえないかという声もあります、お店のほうから。というのは、ごみのお話をしているのに、またごみの話になっちゃうんで申しわけないんですが、これ 1 回使って汚れちゃうと、またごみになっちゃうんですよね。だから繰り返し使えるような、お店の方が洗って、また消毒して使えるような、そんなのもいいねというような声もありますので、それも要望しておきますが、返事は要らないですので、そんなことも市民の皆さんの中から声も上がってますので、ぜひ検討してみてください。

それから、2 番目の生ごみ処理機の現状なんですけれども、いかがでしょうか。平成 26 年度までの数字は、おおむねお話は聞いているんですけれども、平成 27 年度に入ってから動きはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○ 環境生活課長（五十嵐久英君）

平成 27 年度は 8 月末現在で、電動型で 14 台の購入助成をいたしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○ 2 番（笠原幸江君）

始めた平成 21 年度からの数量から見まして、一番たくさん出たのが平成 24 年度でありますね。それで今、14 台ということなんですけども、今後、この制度をどのような形でもっていくか。私はそろそろ検討していただいてもよろしいのではないかと考えてます。壊れるものでもありませんし、ある程度、電気で攪拌して、さびるということはあると思いますが、その後の買われた方の追跡調査とか、そういうのはやってらっしゃいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

生ごみ処理機の補助制度につきましては平成 24 年 10 月から、それまでの補助率が 2 分の 1 だったのが 4 分の 3 というふうに補助率をアップし、また、上限を 2 万円から 6 万円ということに相当に大幅な改善をした関係で、平成 24 年度は相当な数が出て、平成 25 年度も電動生ごみ処理機につきましては相当出ております。

それで昨年度、平成 26 年度からいまいち購入助成の申請の動きが少し落ちてきておりまして、先ほどお答えしたように電動のほうで 725 台、コンポストのほうも合わせると約 2,000 台、合併以来、購入助成をしております。ということは、こういう生ごみ処理機を購入されたい方については、ほぼ行き渡ったのかなというふうにも感じております。ですので今後、補助率を含め、この助成制度をどのようにしていくか検討させていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○ 2 番（笠原幸江君）

ぜひ見直しをされて、また、その先をどうするかということを考えていただければ、いいのではないのかなと考えております。

ところで、この生ごみ処理機というのは、処分するときは何の扱いになるのでしょうか、分別的には。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

コンポストのほうは廃プラスチックということで、埋め立てごみということになると思いますし、電動型のほうはいわゆる家電製品の 1 種ということで、金属類になるかと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○ 2 番（笠原幸江君）

購入段階から処分するまでのストーリーをつくっておかないと、使われなくなったものが自然ごみ、いわゆる金属として出てくる、だんだんその時期に入ってきてると思いますので、そこもしっかりと取り組んでいただきたいと思いますので、お待ちしております。

3番目のごみ処理にかかる1人当たりの年間経費、これいかがでしょうか。皆さん、どのように分析してらっしゃいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

先ほど第1回目の市長の答弁でもお答えしましたように、平成22年度ころから1人当たりの当市のごみ処理経費については増大しておりまして、その前については全国平均で、大体1万4,000円程度ということになっているんですけども、今現在、平成26年度ですと1万7,000円ということになっておりまして、県内平均も全国平均と同じ1万4,000円程度ですので、今現在の糸魚川市のごみ処理経費につきましては、全国平均よりも高い傾向にあるということで、その原因につきましても、先ほど市長答弁の中で申し上げたとおりでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

じゃあ確認させてください。平成26年度で1人当たり年間1万7,448円、そうしますと平成25年度は1万5,312円、確実に1人当たり年間のご家族で計算、お1人の方、お2人の方、4人家族の方はそれに掛けていただければ、年間の経費が出てくるんですけども、先ほど市長の答弁でお答えしたと言いますけれども、いま一度この推移、ずっとデータを見ますと上がっているんですね。今、平成26年度で最高の位置に上がってます。全国平均よりも上がっているとは言いますが、糸魚川市にとっては1人当たりの経費が1万7,000円というのは、それはどのようにして分析して、もう一度確認させてください、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

一番大きな要因といたしましては、先ほど市長がお答えしたとおり焼却施設にかかる運転委託料の見直しという部分が一番大きなものでございます。

それともう1つは、今、埋め立て処分については元、当市の最終処分場のほうへ埋め立てていたのを全て外部処理という部分が、平成22年度から経費がその分増大しているというのと、もう1つは、人口減に伴いまして焼却施設の維持管理費というのは、ごみの量が多少減ったところで、そう変わらないという面がございます。ですから、そういう意味で1人当たりのごみ処理経費が、その分も相まって増大傾向にあるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

私、今ここで、冒頭でも申しましたが、ごみを減量するために質問したのが3回目。何とかごみを減量して、1人当たりの経費を少なくするにはどうしたらいいかということで、さまざまな質問をしてきました。

それで、一般家庭から出るごみの減量をするために究極のごみ減量は、ごみ袋の有料だということも長い期間、学ばせていただいて、それが究極なんだよということだったんですが、糸魚川市はごみ袋に対しての有料化ということは全く考えてないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

現段階では有料化というよりも、お一人お一人のごみを排出する量を減らしたいと。有料化でなくて、それ以外の方法をもって減量化に取り組みたいということで、取り組んでいる最中でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

ごみ袋を有料にする前に、ごみを減量しましょうということで、さまざまなことに取り組んでいる糸魚川市の姿勢をもう少しアピールする必要があると思うんですよ。ごみ袋が有料になったら、それでいいというもので私もないとは思ってるんですね。だから、こういう20・10・0運動だとか、買うときからごみを出さないようにしましょうとか、そういうのをやはり広報なんかで、もう一度宣伝をしていただきたいんですが、いかがでしょうか。

ごみ袋が有料になるよりいいでしょう。みんなで協力しましょうよ。だから先ほどまでずっと質問してきたのは、それにつながってくるわけだから。いかがですか。1回やって、新聞にも出ました。確かに、糸魚川市はこういうことをやっていますよ。新聞にも出てます、それから糸魚川市のインターネットにも出てますが、いま一度お願いするような形、とれませんか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原市民部長。〔市民部長 田原秀夫君登壇〕

○市民部長（田原秀夫君）

お答えいたします。

ごみの減量化については資源循環型の社会を築くということで、これは糸魚川市だけの課題、問題ではございません。あらゆる手段を通じまして、また、あらゆる場面を通じてごみの減量化、また、リサイクルに努めてまいりたいと思ってるところであります。

その点で、今、笠原議員ご提案の20・10・0運動、こういうものも配布をするということだけでなく、できるところから市民一人一人が実践していただく、行動していただくようなことを考えてまいりたいと思います。そのために今後の配布につきましては、先ほどの答弁もありましたが、地酒の実行委員会の方々と連携をして、今後の取り組みを進めてまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

4番目の高齢者への分別周知について伺いますが、ひとり暮らしだけでなく、今は病院から施設、施設から在宅という国の方針もあります。自宅、あるいは住みなれた土地で、住みなれた地域で暮らしたいという高齢者の方がふえてると思いますね。

しかし分別は反面、大変になってくるんですよ。面倒くさくなったりとか、分別数が、今、糸魚川市は19品目に分かれてますね。それがなかなかうまく分別ができなくなってきました。それから高齢化も糸魚川市全体を見ても、先月、統計資料を見ても大変高くなってますよね。能生地域で37.6%、糸魚川地域では35.4%、青海地域では37.4%。それにも増して地区によっては、まだ高齢化率が高くなって、お一人で生活していらっしゃる方もいます。そちらのほうの捉え方を、どのように考えていらっしゃいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

笠原議員おっしゃられるように、当市の分別については県内でも多いほうということで、特に高齢者の皆さんが分別に苦労しているというお話も伺っております。

また、分別については各地区のほうへ出向いて、分別について、こういうものはこういう分別になるんだよというような説明会もやっておりますが、なかなか高齢者の皆様にとっては苦労があるというお話は、先ほど申し上げましたようにお聞きしており、ただ、この分別だけを支援できるかという、なかなかそういうわけにもいかないというふうに考えております。

ですから元気な高齢者の日常的な支援を、市全体としてどのような中で取り組んでいくかという中で、またこのごみの分別についても考えてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

それに関連して、次期ごみ焼却処理施設、これから今、基本設計ということなんですけれども、それも踏まえてごみ処理焼却施設を今の19品目から、どちらの方向にもっていくかということも、もうそろそろ検討していかなくちゃいけないんじゃないかと考えてます。いきなり稼働したごみ焼却処理施設を今、分別してある中で、その中に、またさらに19品目を例えば16品目にするとか、

15品目にするとかということも考えていただきたいと思いますんですが、そこでの関連は、どのように考えてらっしゃいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

次期ごみ焼却施設につきましては、現在、炭化方式という方式でございますけども、次期ごみ焼却施設につきましてはストーカ方式ということで、平成23年、平成24年に、ごみ処理施設のあり方検討委員会というところで、その分別等についても検討をいただいております。

その中の答申の中では、廃プラスチック、こういうボールペンの外とか歯ブラシの柄、あとゴム、皮革製品、そちらのほうを今、分別と埋め立てごみということになっておりますけども、そちらのほうを燃やせるごみのほうへ移すほうが、いいのではないかとこの答申をいただいておりますので、その辺について次期ごみ焼却施設の基本設計に当たり、今年度、また検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

この分別表を見まして、今、課長がおっしゃられた埋め立てごみの中に、ごみとか革製品、かばんが入ってます。これは私、やっぱり新しくできる次期ごみ焼却施設のほうに、燃やせるごみとして出していただくとありがたいなと考えていたところです。

廃プラスチックも全く同じで、プラスチックと廃プラスチックが、なかなか高齢者にとってはわからないというか、皆、プラスチック、プラスチックって書いてあるから、ああ、これもいいのかなというふうにしてごみの中に入って、収集してもらえないという現実もありますので、ぜひそういう燃やせる中に、今、分別されているものの中で、新しい焼却施設の中で持っていけるものがあるかどうかというのは、今から検討、あるいは考えていただくといいのではないかなと考えてます。じゃあ新しい焼却施設というのは、何年に稼働する予定になってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

新しいごみ焼却施設につきましては、遅くとも平成32年4月1日稼働ということで、現在、計画を進めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

それでスケジュール的にはもう近々、急がなければいけない状態にはなっていると思いますが、

炭化システムを導入して、いい状態で炭化システムが稼働していなかったことも事実であります。新しいストーカ方式にするに当たって、炭化システムのと看に失敗とは言わないんですけども、地域で自治体は循環型と先ほど申しましたけど、自分の出したごみは自分たちの地域でというのがこれ基本なので、今後、いろんな手順を踏んでいく中で、しっかりと慎重に、入札するに当たってもやっていたきたいんですけども、肅々と予定がこなされていくと思いますが、指名入札だけは避けていただきたいんですが、そういうところはいかが考えていらっしゃるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

現在のところ入札というか、この発注方式として設計・施工一体型ということで、当市のほうは発注仕様書ということで、このような容量で、このような性能を満たすごみ焼却施設をつくってほしいというような仕様書をつくりまして、それをもとに入札ということでございます。それで一般的には当市につきましては、通常の工事も含め指名じゃなくて、一般競争入札を採用しておりますので、ごみ焼却施設についても一般競争入札というふうな形になるかというふうに、現在のところは考えているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

一般競争入札というのは大丈夫でしょうかね。私、その目的というのは何かと思って考えていたんですけど、糸魚川市の市民にとって、地元の業者さんが参入できるような形は大事だと思うんですよね。大きな工事になるとJVという形のものがあると思うんですが、ただ、一般競争入札で信頼性というのは、どの程度捉えているか。そのほかにもまだ一般競争入札以外に、どういう入札方法があるもんなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

まず、今回のごみ処理施設を考えた場合、一般競争入札にするにしても、いわゆる何も条件のない一般競争入札にするものではないと、ある程度、過去の経歴等の条件を付した中での一般競争入札になるものと考えております。

それから地元業者の参加ということで、そちらについては、まだ今後の検討部分となります。ただ、焼却施設本体の部分については、やはり地元業者では設計・施工できない部分が多々あると思っておりますので、そういった面ではJVという形がとれるのか、また下請等での参加、そういったもので考えていくべきと思っております。

また、一般競争入札以外の方法という分では、プロポーザル方式、いわゆる提案型の決定という、

そういうものもあるかと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

いずれにしろ、やはり失敗を二度繰り返さないような方法を、しっかりと信頼性のあるもの、それから実績のあるもの。ストーカ方式は故障が少ないとは聞いておりますけれども、今の時代になってきますと、コンピューター制御のものが多くなってきてますね。そうするとコンピューター制御になりますと、そのコンピューターそのものを、また5年、6年かかってくると、また新しいシステムに変わっていくというようなお話も聞いておりますので、やはりしっかりしたところをお願いしていただくのが、一番いいのではないかなと考えております。

手動でやるわけでもないし、今は全部コンピューターですよ。コンピューターを扱うのに、故障したら遠くのほうからまた呼んでこなきゃいけないとか、そういうことではなくて、地元の扱えるような人の育成というか、人材といいますか、そういうのもあわせて考えていただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

次期ごみ焼却施設の方式をストーカ方式にした1つの要因といたしまして、ストーカ方式については過去の実績もあり、ストーカ方式の炉自体の信頼性もあるということで採用したものでございます。

もう1点、地元の人の人材育成ということについてでございますが、当然、運転員の皆さんについては、地元の方を優先的に採用いただけるよう、次の新しいごみ焼却施設の運転をお願いする会社のほうへは、そういう条件をつけて発注したいと思いますし、また、その中で地元の人材育成ということで、研修等を通じてある程度、心臓部のほうも理解できる人材を、その運転管理をする中で育てていきたいというふうにも、あわせて条件をつけて発注していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

その件については、よろしくお願いします。

さて、その新しいストーカ方式ができたときに、ただいま19品目あります分別、これは最小限にとどめるのか、このまま19品目でいくのか、その点はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

先ほど廃プラスチックなり、ゴム、皮革製品を燃やせるごみにしたらどうかという、あり方検討委員会の答申が出ているというお話をさせていただきました。それで今年度、基本設計をする中で、そちらのほうをどのような、その答申どおり燃やせるごみのほうへするのか、今までどおりにするのかを含めまして、分別につきましては、今年度、検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

方向が定まりましたら、新しい施設に市民は期待するものも大きいと思うんですね。そうすると、今、分けてある19品目が、少しでも緩和されるのかなという期待感というのがあります。19品目分けてたんだけど、じゃあ今度、何でも燃やせるんかね、プラスチックも燃やせるかねっていう話も出ております。そうしますと何も分別は19品目で変わらないんだけど、何か市民にとって少しメリットのあるようなものにしていただかないと、せっかく今、分別していらっちゃって、意識の高い方もいらっしゃるから、19品目で十分だよという方も中にはあります。ただ、先ほど申しましたように、ひとり暮らしで、地域で住みたい、地域の中で生活したいという、少し手助けをしなきゃいけないような方に配慮していただくには、高齢化率も高くなってきてますので、ぜひそここのところも加味して、今、これはいいよねというものがあったら早目に市民の皆さんに周知して、新しい次期ごみ処理施設に期待を持っていただけるような取り組みをぜひしていただきたいんですけど、いま一度いかがでしょうか。

お返事いただくと聞いている皆さん、ああ、少し形が変わって、少し分別も楽になって、高齢になっても地域に優しいごみ循環型の施設ができるんだなっていう期待も持てると思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原市民部長。〔市民部長 田原秀夫君登壇〕

○市民部長（田原秀夫君）

お答えいたします。

新しい次期焼却施設にはなるべく早く稼働できるように、今、基本設計をしているところでございます。その中で期待される笠原議員の品目が19が、今、市民の方々に、また、中間処理の方々にお願いをして、ある程度定着していると、協力をいただいているということが現状でございます。

新しい施設になったたびに品目を減らしたりふやしたり、あるいは分別の方法を変えたりとすることも、また混乱の1つともなりますが、今、なるべくわかりやすい分別になるように、この基本設計の中で、また、あり方検討委員会の中で総合的に考えてまいりたいと思います。

以上でございます。

もう1つありました。高齢者の方々がわかりにくいというご意見については、アンケートの中でも大変多くございます。そういうものにつきましては、この分別の方法、ごみの処理とはまた別で、

高齢者の方々が日常の生活に困っていることが、ごみの分別もありますし、冬期間の雪の処理もございいます。そういうものをどのように支援していくのがいいのか、そういうものも行政、また、各施設等と連携をしながら取り組んでまいりたいと思います。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。これで私の一般質問を終わります。

○議長（倉又 稔君）

以上で、笠原議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

関連質問なしと認めます。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

○7番（田中立一君）

市民ネット21、田中立一でございます。

発言通告に基づいて1回目の質問をさせていただきます。

1、北陸新幹線系魚川駅・えちごトキめき鉄道開業後の課題について。

(1) 北陸新幹線沿線の騒音・振動について。

鉄道・運輸機構は、北陸新幹線沿線住民の苦情を受け、騒音・振動の2次測定調査を実施したが、その結果と対策を市はどのように捉えているか、考えを伺います。

沿線住民の苦情や要望を市はこれまでどのように調査し、対応してきたか。また、今後はどのように対応するか伺います。

(2) 北陸新幹線系魚川駅の利用状況について。

7月に実施した市の独自調査の結果をどのように捉えているか。また、上越妙高駅など他の新幹線駅の利用客調査と比較してどう考えているかを伺います。

系魚川駅利用客の駅及び駅周辺等に関する感想や要望について調査されているか。どのように捉え、対応しているかを伺います。

(3) えちごトキめき鉄道について。

日本海ひすいラインの通勤通学時の混雑緩和については、現在どのような対策が考えられているかを伺います。

開業前と比較して、利用客数についてどのように捉えているか伺います。

2、農業政策について。

(1) 農協改革について。

先月28日、参議院で農協法改正案が可決され、来年4月から施行されます。「農業所得の向上が目的」といわれますが、地域農協と農業者の連携がますます重要となり行政にも影響が大きいと思われます。市はどのように捉えているか伺います。

仮渡金について。

今年から仮渡金の決定方法が変わりましたが、当市においては米価への影響をどのように考えるか伺います。

(2) 有害鳥獣対策の取組状況について。

昨年12月に制定された県の「特定野生鳥獣の管理及び有効活用の推進に関する条例」に対する市の取り組みはどうか伺います。

電気柵の効果と課題について伺います。

(3) 耕作放棄地の課税強化が検討されています。進まない農地の集積が背景にあります。が、「耕作したくてもできない」「担い手がない」「借りてくれない」が現状であり、「中山間地いじめ」とも言われます。

また、基準緩和による多様な土地利用が必要とも言われますが、市ではどのように考えているか伺います。

以上1回目の質問、よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目、柱道地区につきましては、2次測定範囲を拡大して調査中であり、梶屋敷地区につきましては、2次測定の結果が出ており地元自治会と連携し、鉄道・運輸機構と調整を図っております。

2つ目につきましては、市へ寄せられた苦情や要望等により状況を確認し、問題解決に向けた対応を鉄道・運輸機構へ求め、必要に応じて地元説明会を開催いたしております。

3つ目につきましては、電波障害のほか高架下の排水処理や除草などの要望があります。

2点目の1つ目につきましては、ほかの駅と比較して数字的には少ない状況ですが、市内の主要施設の入り込み客数は伸びており、新幹線開業による効果が出ているものと思っております。

2つ目につきましては、アンケートなどの調査は行っておりませんが、新幹線改札口付近での椅子の設置等の要望があり、JR西日本へ要請しております。

3点目の1つ目につきましては、車両の増設をえちごトキめき鉄道へ引き続き要望してまいります。

2つ目につきましては、特急がなくなったことから、開業前との比較は難しい状況であります。

2番目の1点目の1つ目につきましては、農協と農業者が連携し、農村の活性化に取り組むことが不可欠であり、行政も一体となって推進してまいります。

2 つ目につきましては、先般、ひすい農協から地域の実態に基づいた単価が示され、農業者の生産意欲と所得の向上につながるものと考えております。

2 点目の 1 つ目につきましては、近年、生息域が拡大している野生鳥獣からの被害防止のため、県や猟友会など関係団体と情報共有し、パトロールなどを実施いたしております。

2 つ目につきましては、電気柵はイノシシ等の有害鳥獣から農地を守る効果がありますが、設置や撤去に要する労力が大きい割に、根本的な解決策にならないという課題があります。

3 点目につきましては、現時点では国から詳細が示されていないことから、情報収集に努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7 番（田中立一君）

再質問をお願いします。

新幹線の騒音と振動の問題に関して、被害に遭われている住民の多くの方は、日常生活に悩まされ、困って、精神的にもまいっておりますし、ストレスを抱えて憤っております。

なぜ憤っているかと言うと、まず、これまであまり話にみえない、測定調査の説明らしい説明がない、誠意がみえない、説明会においても上から目線に感ずる、補償の内容に納得がいかない、一体いつまで待たせるのかなどなどであります。

その矛先は、今、行政のほうにも向けられ、市は我々の悩みに耳を傾けてくれない、聞きに来ないと不信感を募らせております。このような声を聞きますが、市としては、その辺の認識はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

今ほど議員が言われたとおり、鉄道・運輸機構の対応についてはなかなか見えてこないという面が確かにございます。今も 2 次測定の範囲等を追加して行っておると聞いてはおりますけれども、その範囲だとか、そういうものについては一応、非公開だという形をとっております。

そんなことから、その辺もやはり不信感につながっておるんだろうというふうに私たちも考えており、この辺のことは、やはり鉄道・運輸機構に強く申し入れをしていかなければいけないというように思っております。

それとまた、今ほど言われた行政も意見等、何も聞きに来ないという点については、確におっしゃるとおりかと思えます。その辺についても手厚いやはりそういうものを、今後、していく必要があるというふうに考えておりますので、今まではちょっと手薄だったところについては手厚くやはり意見を聞くなり、そういう対処をしていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

今、いろいろと手薄だった、あるいは鉄道・運輸機構の対応のほうも非公開等があって、なかなか情報が見えないと。そういう話の中で、やはりこれはスピードを争う案件だというように思います。このことについては、もう昨年以來、特別委員会でも課題として取り上げて報告もいただいたり、また、私、今回の6月の議会でも一般質問で取り上げて、市民の立場に立って考えていかれるような答弁もされておられました。ぜひその辺を、さらにやっていただきたいと思います。

6月16日には県議会でも報告されて、県のほうでも関心を寄せておられました。交通政策局長が、その後、現地を訪れたと聞いております。そのときの様子はいかがだったでしょうか。それで局長をどなたが案内されたのかですけれども、被害に遭っておられる住民にはお会いしておられるのかどうか。住民からどのように困っているか等、直接話を聞かれたかどうか。また、来られているときに騒音を直接体験されたかどうか、そういったことをどのように受けとめられたか、総合的なご答弁をお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

局長が見えられたときは、実際、現地も行っております。ただ、そのときは住民の方とはお会いしてはしなかったというふうに記憶しております。時間的な問題もございまして、直接、新幹線が通った時間帯ではなかったというふうに記憶しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

局長はどのような受けとめ方をされたか、その点はいかがだったでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

やはり問題があるということで、6月24日になりますが、県と市とともに鉄道・運輸機構のほうに、長野事務所になりますけども、申し入れを行っておるという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

そのことについて、また後で伺います。

2次騒音調査ですけれども、梶屋敷のほうはもう結果が出たと。地元の説明のほうもされてるといことで、柱道、小見地区のほうは、6月24日から調査に入っているが、まだ調査は終わっていないと。この調査の時間の違いというのは、まさか梶屋敷のほうは富山事務所で、能生のほうは長野事務所だからということはないと思うんですけれども、1カ月半も時間差があるのはなぜなのでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

2次測定のはかり方なんですけども、当初、2次測定をやった家屋で騒音が超過しとった場合に、また1つ先へ、それが超過しとった場合に、また先へというような方法をとっておることから、やはり一番最初に設定したところの区域から離れれば離れるほど、騒音が大きければはかるのに時間がかかっておるといような状況からやはり違いが出ておると、一番最初に2次測定をやったのが、梶屋敷のほうは早く行っておるといところもありますので、その辺のところ、差が出ておるのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

もう1次測定において基準を超えた場所とか、そういったものはある程度、特定されているんじゃないでしょうかね。ですから、もう同時に測定に入っていくことができたんじゃないか、そのように私は思うわけです。

新聞報道を見ると、1次測定で基準を超えた場所だけではなくて、住民から測定の要望があった場所でも調査すると鉄道・運輸機構は述べていると。今、課長の答弁は、そのことも含まれているのかなというふうに感じたんですけれども、同じ沿線のほうで上小見地区でも騒音が気になるところが結構あるんですけれども、騒音調査には来ていないというふうに聞いているんですけれども、そういった地区別の測定の場所というのは、市のほうでは全部把握されているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

2次測定の最初の場所については、鉄道・運輸機構のほうから情報を得ておりまして、上小見地区についても対象は3件だといことでございまして、これについても今のところ、まだ2次測定には、多分、入ってはいないといことではございます。各地区ごとの2次測定の第1回目の測定の情報については、一応、全部把握してるといつもりでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

この新聞報道にある住民からの要望、測定をしてほしいとかそういった要望等は、誰が、どのように把握して、測定に入っていくんでしょうか。全部、鉄道・運輸機構のほうでされているのか、それとも住民からいろんな形で出ているのを把握されているのかどうか。どうもそういうふうには見えないんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○ 定住促進課長（渡辺 勇君）

基本的に、住民の要望があるかないかは別として、機構としては 2 次測定をやった段階で超えておれば、その次へまたはかる、2 次測定をやる。そこでも超えておれば、また次へはかっていくという方法をとっております。その中で、例えば 2 次測定外になっておっても、住民の方がここもはかってもらいたい、2 次測定してもらいたいというところについては、個別に対応するという形をとっておりますので、説明会とかそういうところで、私もお願いしますというようなことであれば、それは対応しておりますし、説明会以外でも市、それからまた関係区長さんなりにも、そういう話があれば鉄道・運輸機構のほうへ対応をお願いするという形をとらせてもらっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

歩いていろいろと聞いていると、かなりいろんな方から困っている話を聞くわけです。結局、こちらのほうから、市のほうからでもいいんですけども、出向いていろいろと聞く。その姿勢が、まず大事なんじゃないかなと。そうしないと、やっぱり住民のニーズというものは個々にありますし、また、ただ単に近いところよりもちょっと離れた、角度によって音や振動というものは違うので、行ってみないとやっぱりわからないというのがあります。ぜひその辺をやっていただきたい。

今、測定の時間がかかる話、いろいろとされてましたけれども、そんなに時間のかかるものなのかなというのがあるわけなんです、この間、マスコミも大勢取材に来て、NHK が新潟大学の教授を伴って 1 日測定したことがありましたけれども、もうその日のうち、帰られるときに、もうこの調査はこうだったと、こういう結果が出たというのをすぐ示してもらったというふうに聞いております。

そういうのを聞くと、もうある程度の場所がわかっていくと、そういう調査結果というのは、じゃあいつごろ終わって、この結果をどのように今度は住民に説明していくか、そういう段階がもう見えてるんじゃないかと、また、見えてなきやいけない時期じゃないかと思うんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

測定の方法で、朝6時から最終まで一応20本ぐらいの中を全部はかって、その中の本当に10本程度のところをとって、それから周りの騒音だとか音を全部外した中で、それが最終的に何十デシベルになるかというような形ではかるものだというふうにお聞きしておりますので、そこについては、やはりある程度時間がかかるものというふうには認識しております。

また、今言われたように、確かにはかってから個々に通知だとか、そういうものは確かに時間がかかっておるといふふうに私たちも認識しておるところでございます。もっと早くできないかというふうには思っておるところでございますので、その辺も鉄道・運輸機構に、今後、また強く要望していきたいなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

先ほどの幾つかの質問の中で、かなり認識はされているようだなというふうには受け取るんですけども、認識されているなら、もっと早く行動に移していただきたいなと。本当に住民の皆さんは困っております。また、かなりストレスも抱えております。

補償のほうの話をさせてもらいますけれども、基準が70デシベルということで、それを超えた場合が対象ということなんですけれども、これもまた75デシベルを超えると、またさらにランクというんでしょうか、そういう基準も変わるとかって言うんですけども、そういう騒音、振動に關しての補償に対する基準は、住民等には説明等はできているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

住居地域については、環境基準が70デシベル以上ということで、それ以外については環境基準では75デシベル以上という基準がございまして、今回は住宅地域ということで70デシベル以上のものについてはそういう補償だとか、鉄道・運輸機構に言わせると助成と言っとるんですけども、音源対策なり、各個々の家庭の防音対策なりを行っていくというふうにお聞きをしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

ここで改めて伺いますけれども、地元の説明会をしながらというふうに、さっき市長の答弁でもありましたけれども、どの地区に、これまで何回説明会というのをされてこられましたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

各地区へは、ことしに入って２次測定を行うという説明会を１回、鉄道・運輸機構の側のほうで行っておるといふに、各地区には１回ということで認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○７番（田中立一君）

各地区というのは、梶屋敷、下小見、柱道の３地区各１回、全部で３回ということですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

鶉石、それから上小見、下小見、柱道、梶屋敷、大和川で、各１回ということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○７番（田中立一君）

この中に鶉石がありましたけれども、鶉石で困っている住民に聞いたら説明会は聞いてないよといふに、先日、私、聞きましたけれども、違うんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

５月１８日、すみません、これは個別で説明をしとるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○７番（田中立一君）

個別でやってるところと、区を通してやってるところとあると。鶉石地区に関しては個別でやったと。何件、いつやりました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

対象は１棟でございます。ただ、やはりそこについても、追加等を行う予定があるというふうにはお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

鵜石のほうは後でまた伺いますけれども、先ほどの話の中で県の交通政策局長が現地を訪れたことについて伺いました。その後、24日に交通政策局の副局長と織田副市長は、長野事務所に訪れて要望書を提出されたというふうに先ほど聞きました。

この要望書ですけれども、県の報道資料を見ますと、ことし3月に開業した北陸新幹線について、糸魚川市柱道地区、下小見地区の住民の方から、車両がトンネルを通過する際の騒音が深刻であるとの苦情が寄せられたことを受け、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部、長野工事事務所に対して、速やかな処置を講じるよう要望したとありまして、そのことに関連しての新聞報道を見ますと、要望はトンネル本体の対策工事を早急を実施することと、家屋の騒音調査を実施して、補償について住民に十分説明することの2項目とありました。

この長野事務所を訪れたときのさらに詳しい内容があれば、その内容と、そのときの機構側の対応はいかがだったのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○ 副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

6月24日に鉄道・運輸機構の長野事務所へ行ってまいりました。そこでは今、ご質問にあった報道、大まかはそのとおりであります。

ただ、私のほうは、特に鉄道・運輸機構に対しまして誠意とスピード感を持って、早急に対応願いたいということを強く強調してまいりました。それに対しまして鉄道・運輸機構も誠心誠意、一生懸命やるということでもあります。ただ、その後の対応を見ますと、なかなかそうはいってないなというのが実感であります。

私も合併前は旧青海町で新幹線対策のほうを担当しましたんで、鉄道・運輸機構の体質については、ちょっと心配してるところでありまして、鉄道・運輸機構の体質につきましては、少し不信感も持っておりました。そういうことで早急に対応願いたいと、スピード感を持って対応願いたいということで要請したわけでありまして、対応がちょっと遅いような気がしております。その辺につきましては、また督促なりそういったもので対応したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

副市長が鉄道・運輸機構に対して不信感、あるいは心配されている。住民はもっと心配してるし、毎日、毎日、直面しています。そういうのをいつ感じられたかわかりませんが、やっぱりすぐにそれを感じた時点において対策を講じてもらいたいし、また、住民に対する説明や出向くこと等を、重ねて言いますけれども、必要なんじゃないかなと。そういったことが住民にとっては、織田副市長が鉄道・運輸機構に感じたことを、行政にも今度は住民のほうでも感じてしまうわけです。

わ。その辺をしっかりと認識して、対応していただきたいと思います。

その新聞報道で長野事務所長、坂本所長に出された要望ですけれども、トンネル本体の対策工事が1項目に挙げられてましたけれども、県のほうで出されたその要望書の中のトンネル本体の対策工事というのは、どのようなもの指しているんでしょうか。具体的な内容を、わかればお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

トンネルの緩衝口をコンクリートで充填する、埋めるということと、それから吸音板の設置等を検討しておるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

それはその要望に行ったときにこのトンネル本体の対策工事について、具体的にこういうのをお願いしたいというふうに言って、事務所のほうでは、それを検討しているというふうに言ったということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

そのときに、こちらからこういうふうにとりような要望ではなくて、それはあくまでも音源対策をしていただきたいということでございまして、その後、鉄道・運輸機構のほうでは、今言ったような対策を検討しておるということで、お聞きしておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

機構のほうでそれをやってくれるのは、またぜひやってもらいたいと思うわけですが、検討というのは一体いつまでされるのか。今現在、新幹線が通っているということもありますし、いろいろと制約があるんでしょうけれども、そういうのを聞いたら今度はいつごろやってくれるのか、どういう形でやっていくのかと説明を求めているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

やはり今、開業しとるということと、工事にも時間的な制約が課せられるということはお聞きし

ております。ただ、やはりいつごろまでということでお聞きはしておりますが、その明確な回答等は得られてはいないという状況でございます。

今の検討も、ただ埋めてしまえば、そこでいいかという、なかなかそういうものでもないという、またほかに例えば問題が生じるおそれもあるので、総体的な中で、今、検討しとるといようなお話は、お聞きしてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

やはりそういう経過も踏まえて住民に説明する機会というのは、やはり必要ですね。

それから、やはり検討しているんなら、その回答というか、中身、それからいつごろとかという、そういったことを含めて、再度、鉄道・運輸機構のほうに求めていく、必要なんじゃないでしょうか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

おっしゃるとおりでございますので、やはり鉄道・運輸機構のほうに、その辺ところも求めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

補償についてでありますけれども、この夏は大変暑くて、1つの住民の声なんですけれども、騒音に苦しむ住民の皆さん、窓も開けられないと、大変に困ってありました、想像がつくかと思いますが、補償の内容の中に、エアコンをつけられるという内容もあるということなんですけれども、今、騒音の測定調査の段階だから、補償のほうにまで話がいったいわけなんですけれども、生活にそれが耐えられないから、そんなん待てられないから、もうエアコンをつけたとか、そういう話も聞きます。

やはり切実な問題であるなと思いますし、また建物、あるいはその周辺への被害ということで、柱道地区のトンネル付近の家では、玄関に上がるコンクリートの階段がひび割れているとか、そういったものも玄関へ行くと見えます。恐らく目に見えないものやなんかもあるじゃないのかなと、そこに。そういうのをやはり市のほうでも把握してもらいたいなと思うんですけれども、そういったことはご存じでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

柱道の現場につきましては、私も何回も行っておるんですけども、そういったコンクリートのひび割れとか、そこまでは気がつかなかったということでもあります。また早急に現場にまいりまして、早急にまたその辺について事情を聴取しますし、また、鉄道・運輸機構にも長野のほうへ出向いて行って、その辺につきまして誠実に、スピード感を持って対応するように督促をしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

先ほどの鵜石地区ですけれども、市役所に本人が連絡をしたら一度来てくれたと。鉄道・運輸機構の方も一緒に見えたというふうな話を私、聞きました。

住民の要望としては先ほどのように音さえ、あるいは振動さえ小さくなればいいんで、そういったことをしてくれる工事をしてもらいたいけれども、それはお金や時間のこともある。建物に対する補償のほうはじゃあどうなんだということで、できれば家の窓を二重サッシ等、そういったことにしてもらいたい。そういう話をしたところ、エアコン等はいいいんだけど二重サッシ等は、そういったのはできないんだよというふうに言われて、非常にショックだったというふうに聞いております。

私は他の地区での説明会、あるいは話を聞いていると、この補償に関する文書というものが、2次測定の調査のものとおわせて2部ほど配られているわけですけども、そういう文書を見たことがないと、鵜石のほうは言っていました。

そちらのほうの下小見、あるいは柱道のほうの説明会では、そういう二重サッシ等の改修工事はオーケーだと言ってますよと言ったら、信じられないというような形なんですけれども、地域によってそういう差が出るというのは非常にまずいんじゃないかなと思うんですけども、その辺はご存じでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

今の話についてはちょっと知り得ませんでしたので、そういう問題があればやはり鉄道・運輸機構側に不信感というのは、なお募っていくというふうに考えておりますので、そういうことがもしあったとしたら、そういうことは是正していただきたいですし、そういうことのないように要望と言いますか、それはもう強く言わなきゃいけないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

ぜひお願いしますし、あわせてそういう測定や、あるいは補償に関する文書、配布されているも

の、求められるところには皆さんに配布してもらいたいと思います。

その鶏石地区、お話聞いていると、3月に赤ちゃんが生まれて、家で静養と言いましょうか、生まれたばかりの赤ちゃんがいたわけですけど、寝るに寝れないと言いましょうか休めない、非常に困ったし、赤ちゃんに対する影響も心配していると。もともと予定しておったのかどうかは、私、ちょっと確認しませんでしたけれども、後で聞いたら6月に、そこを引っ越したというふうに聞いております。さっき言ったように、もともとそういうふうに予定してたのかどうかはわかりませんが、3カ月間の間、かなり深刻な状況だったようでありまして、想像にかたくなと思います。

やはり1軒、1軒、いろんな住民の事情というものがあって、そういったものに真摯に耳を傾けていく、そういったものが必要じゃないかなと思うんですけども、さらにこの付近のお話を聞いていますと、そのすぐ近くにトンネル工事のいろんな建物や、あるいは作業現場があったわけですね。四六時中、昼夜を問わず大型のトラックや重機が出入りしておりました。かなりその現場でいろんな話、うるさいという形であったわけですが、今回、これ開業後というふうに通告しましたけれども、建設現場における騒音や振動等、補償に対する対応というのは、鉄道・運輸機構側はあったんでしょうか。もし答えられるならお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

工事中の具体的な、今、議員がおっしゃられたような状況は聞いておりませんが、工事中、住民の周辺の皆さんに迷惑をかけないように工事をするということでの基本的な対応はしてきているというふうに思っておりますが、今おっしゃられたような具体的なものは、お聞きいたしておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

何度も言うようですが、住民の立場に立ってと言いましょうか、そういう声をより拾って、鉄道・運輸機構のほうにはやっぱりそういう対応のあり方について、市のほうでも求めていってほしいなと思います。

沿線住民の騒音や振動以外による健康への影響、こういったことについて市はどう考えておられるのかなと。住民からは差し当たっての、そういうどこそこが悪いというのは私も聞いてはおりませんが、6月議会で私も微気圧波についても触れたりもしました。場合によっては、健康への被害もあるんじゃないかと思われます。もうストレスだけでも大変なものです。その辺のケアというのも大事じゃないかなと思うんですけども、考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

私も現場のほうへ行って当事者の方と時々会うんですけども、そういったことまでまだ、何と言いますか、健康被害があるというような情報は、まだ入手しておりません。その辺につきましても現場へ行かまして、また関係者と会って、その辺、直接きちんと声を聞きたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

よろしくお願いいたします。

騒音、振動以外の苦情、問題点は先ほど答えていただきましたけれども、ほとんどみんな解決に向かって、あるいは解決されているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

先ほど市長が答弁で申し上げました電波障害については対策を現在実施して、おおむね完了するという状況でございます。

また、排水の苦情等につきましては、まだ現場のほうで対応がなされていないと。鉄道・運輸機構のほうへお伝えいたしましたが、まだ検討中の段階という状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

検討中がちょっと多いなというところなんですけれども、やはり排水のほう等も含めて早急な対応のほうを求めてもらいたいですし、私、聞き漏らしたかもしれませんが、日照権のことは言われなかったのかなと、日照権についてはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

日照権も建物の日陰だとか、それから農作物の日陰ということがあります。

これについては、建物については能生地域、糸魚川地域、青海地域、それぞれ対象になる物件があるということでございまして、その辺は補償等の話は進めておられて、補償済みになったところもございます。

それから農地、農作物の日陰補償についても、能生地域、糸魚川地域、青海地域、これもそれぞれございまして、これについては、今、補償費のほうを算定中だというふうにお聞きしております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

日照権の中で田んぼ等の日陰で作物が成り立たないと。もうことし作物は諦めたということで、その部分だけ稲を植えないで、いわゆる耕作放棄の形になっているところがあります。下小見地区なんですけれども、そういったところは把握されていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

個々のところまでは、まだちょっと把握はしきれておりませんが、農作物の補償が対象になっておるといのは知っておりますけれども、個々までの、どの筆までとか、そういうものについては、ちょっとまだ把握はしていません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

新幹線が開業して、いろんな課題があるわけですが、ひとつスピード感を持ってというふうに先ほど言われましたけれども、本当にそのとおりで、ぜひ取り組みのほうをお願いして、次に入らせていただきます。

（2）の糸魚川駅の利用状況。

今回、独自調査をしていただいたということで、6月の議会のときにも一般質問で、このことをいろいろ聞いたわけなんですけれども、こういうのはやっぱりイベント時だとか、夏の繁忙期だとか、いろんなケースにおいて観光客の動向を把握するとか、いろんな面で大事なデータになるんじゃないかと思うんですけれども、今回、なぜ7月のそのときにされたか、その辺の分析についてはどうか。まず、その辺について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

JRのほうでは、乗降客については公表しないということできておったわけでございますが、7月のたしか8日だったですかね、一応、各駅の乗降客数が発表されまして、糸魚川については、たしか1日当たり400人というような報道がなされました。その報道を受けて、本当に実際、一番糸魚川駅が少なかったわけでございますので、本当にそういうのかどうなのかという、まず確かめたいというのも1つございますし、それから、やはり新幹線だけでなく、えちごトキめき鉄道もあり、大糸線もあり、その辺のところの総合的な乗降客だとか、そういうような動向を知ると

+

いうことは、やはり今後の例えば地域活性化だとか、観光振興だとか、そういうものにやはり必要なのではないかなということから、今回、新幹線について行ったということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

私も次にそういったことを聞こうかと思ったんですよね。やはりそのとおりだと思うんですよ。そのようなことを考えて、こういう独自調査をされたということは、その乗降客が今度、じゃあどのように流れていったかというのも、あわせてそのときされたんでしょうか。今回の調査というのは乗降客の数だけやったんでしょうか、どの範囲までされたかをお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

今回の調査につきましては乗降数のみでございまして、その後、どういうふうに流れたか、2次交通がどうなっているかということころまでは、調査はいたしておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

隣の市や駅と比べるのも何かと思うんですけれども、いろいろ報道を見たりして、もう何回かされたりして、そのデータを活用していくというふうにあるわけです。今後もこういった独自調査をやっていく意向があるのかどうか。その辺の考えと、今後の調査内容について、いろいろとまたさらに詳しくデータ分析するための材料としてやっていくのかどうか、その辺の考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

やはりJRのほうで公式に乗降客を発表しないとなれば、独自で調査をしていく必要があると思います。それについても新幹線を含めたほかのものも含めて総体的にやはり調査をし、どういうふうな形で、今後、生かしていけばいいのかというやはり基礎資料としては、必要なものだというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

大事なことはないかなと思いますし、よろしくお願いします。

それから、次のほうの駅周辺の、あるいは駅の要望。私も椅子のことを言おうかなと思ったんですが、いろんな方から椅子の要望があります。今、この見通しはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

椅子のことについてはもう前々から言っておって、当初、ＪＲのほうでは、けががどうのこうのということで、ちょっと後ろ向きな発言があったわけですけども、最近、どちらかといいますと、取りつける方向で検討したいという回答をいただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○７番（田中立一君）

次に、えちごトキめき鉄道の通勤通学の混雑なんですけれども、緩和策を求めているということなんですけれども、今回、１０月１日に小幅なダイヤ改正があるのですけども、それに向けての動きというのはできなかったんでしょうか。あるいは、働きかけというものはされたんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

働きかけについては、もう当初から行っております。今回、緩和策として車両の増結、それからもう１つ考えられるのが、今、快速で７時５９分発のものを１時間例えば早めると、通勤通学にも間に合うということで、その辺のところも一応、要望はしておりますが、今回の１０月のあれには入りませんでしたけども、大幅な改定については３月に行うというような話もお聞きしておりますので、何とかそれに間に合うように、また要望していきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○７番（田中立一君）

もともと３両走っていたものが、１両になったり２両になったりということで、車両の増結というのは、結局、車両１両、あるいは２両をくっつけると。それに伴って１人か２人運転士か、あるいはそれに必要な人員が要るということなんでしょうけれども、えちごトキめき鉄道さんに、その増結する余裕というものはないということなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

車両的には、４月の初めについては２両のものを３両で運行した時期がございました。ただ、え

+

ちごトキめき鉄道の言い分としては、予備車も使ったことから、それを全部使っているともう予備車がなくなって、例えば車両に何か故障があった場合に、そのところ全線、運休になってしまうというようなおそれもあることから、できるだけ予備車はとっておきたいというような意向から、今のところ2両になっというふうにはお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

予備車というのは何両あるか、そういった等の情報は把握されているのでしょうか。また、これはじゃあ4月になれば、その辺が改善される見込みというのはあるのでしょうか。その辺の情報の把握というのは、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答え申し上げます。

予備車は、車両は1台であります。したがって、それを使うと何かのときには対応できなくなるということであります。

それから、4月に3両編成でさせてもらいました。そのときに、えちごトキめき鉄道のほうでは乗客数を把握をしております。結局、3両にしましたけども2両の定員よりも少なかったということで、もう3両でなくて2両に復元をしたという状況であります。今後、予備車のほうも来年以降についてはふやす方向で、今、要請をしてるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

できるもんなら、時期というのはあるんでしょうけども、この10月のダイヤ改正で変わったのは、妙高はねうまラインのほうの接続時間があるわけですけども、ひすいラインのほうについても、いろんなこういった困り事について対応できたらなと期待しておったんですけども、ぜひ早く実現するようにお願いしたいと思います。

次、農業政策のことについて伺いますが、電気柵のことについて伺います。

水田や畑作物の鳥獣被害には電気柵は有効ということで、市でも助成して急速に普及しておるわけでございます。

ことしの7月に、電気柵に伴う痛ましい事故が発生して市でも緊急調査され、建設産業常任委員会でも報告がありました。その報告されたのは、助成対象となっている6万4,000メートルなんですけど、今、ホームセンターとかネットショップでも売られていて、手軽に購入できるようになっているわけですけども、そちらのほうの実態把握というのは、されているのかどうか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

電気柵の市内の点検につきましては、先般、建設産業常任委員会でご報告申し上げたとおりであります。

ホームセンター等での購入につきましては、市のほうでは把握しきれておりません。ですがホームセンター等で設置された方々に向けての注意喚起は、広報等でお知らせをさせていただいておるという状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

どちらかという、こういう助成対象になっているのは管理がされているから、そんなに心配はしないんですけれども、心配するのはやはりそういったもののほうが、かえって心配になってくるわけです。今後、そういったことに対しての実態把握等をされる予定は、先ほどは広報で注意喚起はされているというんですけれども、実態把握をする予定というのは、検討されているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今のところ、実態把握に向けての取り組みはしておりませんけれども、引き続き注意喚起については、努めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

電気柵の効果と課題ということで、先ほど市長からも答弁をいただきました。そのとおりに、いろいろと労力のほうもなかなか大変だというふうに聞いておりますけれども、先ほどから話が出てます助成でありますけれども、条件としては個人というよりも集落などグループであることと、最低限の継続年数が設けられております。このことについて、いろいろと話を聞くわけなんですけれども、担当としてはどのように捉えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

電気柵の設置基準につきましては、3戸以上の農家がまとまってという要件がございます。これ

+

は国のほうの補助制度の基準を、そのまま引用させていただきとるものであります。

平成28年度に向けまして電気柵の設置の要望を、今、各地区のほうから取りつけている時期でございますので、被害があつてからということではなくて予防的に先を見て、できるだけ手を挙げていただけるように、地区のほうへ出向いて話をしているという状況でございまして、その3戸の設置基準については、今のところ現行のまま進めたいということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

質問を1つ戻つてのほうになってしまうんですけれども、野生鳥獣に関してなかなか、被害や、あるいは頭数等いろいろと取り組んでいるんですけれども、効果がなかなか見られない。むしろイノシシとか非常にふえているというのが実態であります。

今回、取り上げた特定野生鳥獣の管理及び有効活用の推進条例、それから国のほうでもことしの5月には、改正の鳥獣保護管理法が施行されているわけであります。これからは、今までどちらかと言うと、野生鳥獣に関しては保護なら保護の担当、あるいは管理し、あるいは捕獲したりするのは、また別なほうでやってるとかいうふうにあるわけなんですけれども、今後は野生鳥獣の対策する保護と管理の一元化が求められている時代だというふうにも言われるんですけれども、その辺の取り組みというのは検討されているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

有害鳥獣対策につきましては、県、市、また警察、JA等と連携しながらやってるところでございます。

議員ご指摘のとおり法律の趣旨が、今までは保護の部分からいわゆる管理ということで、個体数も減らすという部分も視野に入れた法律というふうに改正されております。

今までも鳥獣被害対策チームということで、先ほど申し上げた団体等で協議しながら対策をとってまいりましたし、今後もその団体が連携しながらやっていくという部分については、変わらないのかなというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

この野生鳥獣に関しては、非常に現場のほうでも苦慮しているところであります。実際、被害額等も700万円とかいろいろ挙がっておりますけれども、実際においては、もっと大きいんじゃないかなと思っております。ことしは人的被害もありました。ぜひ対応のほうをよろしく願いして、私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（倉又 稔君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩をいたします。

再開を１３時、午後１時といたします。

午前１１時５２分 休憩

午後 １時００分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、吉川慶一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。〔１番 吉川慶一君登壇〕

○１番（吉川慶一君）

創生クラブの吉川慶一です。

１回目の質問を行います。よろしくお願いします。

１、北陸新幹線開業が市内に及ぼす影響について。

３月１４日に待望の北陸新幹線が開業し、５か月が経ちました。観光地の整備と状況、今後の観光客の誘客について伺います。

（１）北陸新幹線開業が地域観光にどのような影響を及ぼしたのか伺います。

糸魚川駅を利用する観光客の見込み数と実際の観光客数はどうでしたか。見込み数と実数でどのように考えていますか。

世界ジオパーク・糸魚川の観光地の整備状況と今後の計画について伺います。また、交流人口はどのように変化しましたか。

（２）観光客の反応について。

糸魚川市内の宿泊施設は少ないとお聞きしていますが、施設の現況と今後の都市計画について伺います。

観光客の声を活かすために、アンケートを行う予定はありますか。また、具体策はありますか。

（３）広域観光連携の具体的な計画をどのように考えていますか。また、近隣の自治体及び団体との新たな計画はありますか。

２、フォッサマグナの海底ジオラマについて。

糸魚川市近海は、起伏に富み、極めて複雑で険しい地形となっていますが、周辺の海に好漁場をもたらすような有益な特性ともなっています。市民の方がこのような海底の状況をジオラマで作成し、この度報道公開されました。

- (1) このジオラマは海図を基に海底の様子が分かるように製作されています。このジオラマを糸魚川ジオパークの海底版として、観光、教材として利活用する考えはありますか。

3、糸魚川市防災計画の見直しについて。

- (1) 近年、全国各地で台風・地震・集中豪雨等多くの災害が発生しております。津波ハザードマップの見直し後、避難計画で避難所、避難路、避難ビル等の見直しについて伺います。

高齢者や弱者の避難方法を地区の方と確認できましたか。

情報の伝達について、防災行政無線の伝達困難区域の解消に向けて、デジタル化工事で整備を進めていますが、改善できますか。また、消防団無線の配備状況と運用はどのようになっていますか。

- (2) 焼山防災について。

昨年、御嶽山の噴火による被災がありました。自然災害を予測することは難しいと思います。糸魚川市にも新潟焼山があり、過去に大噴火が発生したことが記録されています。今後の火山活動に対し、国及び県の観測調査結果等について伺います。

焼山の防災計画の見直しについて、住民避難のシミュレーション計画は、どのようになっているのか伺います。

噴火発生時、登山者の避難対応をどのようにするのかお伺いします。また、避難用シェルターは何か所ありますか。

- (3) 地震津波防災について。

地震はいつ発生するか分からず、特に、糸魚川沖には海脚の記述が古文書にあり、地震の想定をしていかなければならないと思いますので、今後の津波防災について伺います。

国と県の津波防災計画の見直しはされましたか。対応はどのようにされ、徹底されますか。

地区防災計画の見直しはどのようにされていますか。

地域の防災に対する知識をどのように周知されていますか。

1 回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

吉川議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目の 1 つ目、糸魚川駅の利用見込み数は乗降調査の結果、開業前の想定を下回っておりますが、市内の主要施設の入り込み客数は伸びており、新幹線開業による効果が出ているものと思っております。

2 つ目の各ジオサイトの説明看板等につきましては、当初予定した整備を完了しており、アクセス道路等につきましては、実施計画等に基づき計画的に整備を行ってまいります。

交流人口につきましては、6 月末までの入り込み客数で増加いたしております。

2 点目につきましては、宿泊者数調査や北陸新幹線糸魚川駅の認知度等に関するアンケートを開業前に実施いたしております。開業後との比較を行うため今年度も調査を実施いたします。

3 点目につきましては、現在、北アルプス日本海広域観光連携会議や上越 3 市観光連携実行委員会等で、広域の視点に立った観光誘客を行っており、新たな対応も模索してまいります。

2 番目につきましては、今後の利活用について関係者と相談をさせていただきたいと考えております。

3 番目の 1 点目の 1 つ目につきましては、地区、または自主防災組織と継続して協議を行いつつ、繰り返し訓練等で実践しながら避難方法について確認してまいります。

2 つ目につきましては、再送信できる子局を増設し、電波が全地域に届くよう整備を進めるとともに、戸別受信機の普及にも努めてまいります。

また、消防団無線につきましては、今年度中に完了する見込みであります。消防本部と消防団が連携をし、運用してまいります。

2 点目の 1 つ目につきましては、新潟焼山火山防災協議会で避難計画を策定いたしておりまして、10 月 10 日には避難計画に基づいた訓練を予定いたしております。

2 つ目につきましては、防災行政無線、緊急速報メール及びヘリコプターなどによる情報伝達を行うことといたしております。

また、避難用シェルターにつきましては、1 基設置いたしております。

3 点目の 1 つ目につきましては、現在、県で調査を進めており、その結果を踏まえて速やかにハザードマップの見直しを行います。

2 つ目につきましては、災害対策基本法に基づき毎年検討を加え、防災会議で修正を行っております。

3 つ目につきましては、防災リーダー研修及び出前講座等を開催し、防災意識の向上を図っております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1 番（吉川慶一君）

じゃあ、これから 2 回目の質問をさせていただきます。

概略は市長からお伺いしましたのでわかりましたが、若干、詳細についてこれからお伺いさせていただきたいと思います。

先ほどお話ししましたように、期待する観光客が大きく伸びると思っていたが、実際、思うように伸びてないということが現況でないかなと私は把握しております。

それはさておきまして、今後、どんどんふえることを大きく期待してるところでございます。

さて、糸魚川ジオパーク関連で経済効果の発展をどれぐらい、今、新幹線が通ってどれくらいと見込んでおられるのか。また、それによってどうすればいいのか、担当課にお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

まず、経済波及効果ということでございますけども、今、フォッサマグナミュージアムが、これまで4万人であった入館者数が6万人になりました。これを2万人ふえたという想定の中で、観光庁の経済波及効果の経済モデルを使って推計しますと、直接効果で約1億円、1次、2次の波及効果で2億円といった数字が出ております。つまり1万人お客がふえると、1億円ぐらいふえていくと、こんなような形で試算しているところであります。

今後もお金のことも意識しながら、1人でも多くのお客さんから糸魚川ジオパークに訪れていただきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

フォッサマグナミュージアムが非常に多くの人から利用され、見学されてることは大変喜ばしく思っておりますし、そうは言うても、まだまだ24サイトというサイトがあるわけですから、これらのサイトも大いに有効利用していただきたいし、また、関連をとっていただきたいと、こう思います。

それで現在まで24サイト、どれぐらいの人が見学、利用されているか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

基本的には24ジオサイトと申しておりますけども、糸魚川市全体がジオパークということでありまして。そうしますと私ども今、交流人口として去年では196万人のお客様が訪れております。これが私ども、一番重要視する指標だというように捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

糸魚川市全体でこのサイトを守っていく、また、観光にしていこうということでございましょうが、やはり広範囲でございますが、ある程度、プランじゃないけど、こういう方向があってもいいんじゃないか。今、非常に山手のほうのサイトを見ますと、利用できるところ、できないところ、また、ちょっと時間かかるところ、こういうところがまだあるんじゃないかと思いますが、順次、計画されているのはわかるんですが、現実、どのようになっているのか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

基本的には、入り込みの多いところを中心に整備をしていきたいというように考えております。これまでもヒスイ峡のトイレの整備、あるいは月不見の池の遊歩道の整備をしてまいりました。ことしは蓮華温泉のトイレの整備といったところをやっておりますが、今後、親不知、あるいは青海川のヒスイ峡等の整備を計画しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

計画を一日でも早く進めるよう、ひとつお願いしたいと思います。少しずつですが観光客が来て、地域を見て評価されてるわけですから、やはり落ちのないようにひとつお願いしたいと、こう思っております。

それで、ちょっと若干戻りますが、このジオパーク関連で企業誘致はどれくらい関係でありましょうか、わかったら教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

詳細はよくつかんでおりませんが、目に見えて具体的にわかるのが駅前のジオパークホテルでしょうか、そんなふうに出ております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

後ほど触れるかと思いますが、入り込み客によってホテル等が少ないのではないかと、こういうのも聞いておりますが、ぜひ企業とひとつ手を組んでいただいて、糸魚川の観光客にぜひとも糸魚川で泊っていただくような方針を、プランを立てていただきたいと、このことをお願いします。

今のに関連しまして新幹線糸魚川駅周辺と、やはり最初の売り込みであったように日本海の魅力利活用、これをどの程度であるか、具体的に教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

私ども糸魚川駅は、日本海に一番近い駅ということで売り出させていただいているわけですが、この中には例えばヒスイ探しといったようなメニューで、多くのお客様から来ていただいている部分もあります。ジオパークは学習するという側面もございますので、そこへ糸魚川の海に来て

ヒスイを拾う、あるいは石を探す、そういった中で、いろいろさまざまな学習活動をしていただきたいなというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

続きまして、先ほど市長からもありましたように、アンケート調査によって進めておるということでございますが、そのアンケート調査されて具体的に生かされるというのは、いつごろを目安にしておられますか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

市長が申し上げましたように宿泊者数調査、あるいは認知度調査をやっておりますが、基本的には私どもイベントがあるごとに、できる限りのアンケートをして、情報をつかむようにしております。

例えば、毎年、行っています観光動態調査では、糸魚川の情報をどうやって拾ったのかというのを毎年聞いておりますが、その中で大きく変化してきたのが、インターネットによる情報入手ということであります。例えば、平成23年度では16.1%であったものが、平成26年度では25%というようにふえております。こういったことを踏まえながら、新聞とか雑誌よりもインターネットを中心にした、情報発信というものを心がけていかなければならないと考えておりますし、アンケートを生かしながら、常にそれに適切に対応してまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

具体的にわかりやすく、ご説明ありがとうございます。

この後、糸魚川駅の利用状況について若干お伺いしますが、開業されて5カ月経過しておりますが、非常に多くの方からジオパルを利用されておると、大変喜ばしく思っております。しかし、反面で言いますと、商店街へ流動する人たちが減少してる、また、利用いただけないのではないかと。これについて、どんなようなお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

なかなか商店街への誘導というのは、難しい状況ではないかというご意見もございますけども、

ジオパルの中では駅北への情報発信を多く出しております。当然、青海、能生地域への情報発信もしているわけですが、特に、近いということで駅北の地図、マップをつくって情報発信に努めているところです。

開業後でございますけども、駅北、あるいは駅南のほうで、飲食店が新たに3店舗開業するなどといった動きもございます。こういった動きがあるということで、いずれにしましても私どもとしては、情報発信に努めながら周辺の商店街、さらに周辺地域、糸魚川市全域にその影響が及ぶように、努力してまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

詳細にわたり課長からご説明ありがとうございます。

さて、ジオパルは非常に人気あって、全国から見えられております。こう見ると、相当の人数がカウントされてるということでございますが、そこにはいろんなもの、列車、特に先ほど言いましたように石が、非常に糸魚川は石、海もあるんですが、ヒスイの宝庫でもあるわけです。それがやはりどう結びつけるか、どう利用していくか。例えば1例ですが、石拾いするにもどのように姫川を利用させてもらえるか。このようなご検討どうでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ジオパル内に観光協会がございますが、先月になりますが、観光協会で石拾いのキットというものを500円で、今、販売しております。50個ほど、もう既に売れたというようにお聞きしておりますが、こういった取り組みをする中で、具体的にこう形で、こうやってやったら楽しめるよといった提示をしながら、お客さんに楽しんでいただきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

ちょっと具体的に聞くんですが、確かに私もそれを見させていただきました。やはりその模造品より現実のヒスイ、姫川でヒスイを拾う、海で拾ってみる、これがヒスイだよと、糸魚川ヒスイだよというのが少し弱いのではないかなと。現実には小滝にも、もっと原石があるわけですが、そちらのほうに誘導していくという方法はないか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ジオパル内で本物というのは、ヒスイは原石 1 個だけであります。基本的に全てにせもの、写真等で表示をしているわけです。それと申しますのも、ジオパルの中で完結してはいけないということで、吉川議員おっしゃられますように、ぜひ本物を現地に足を運んで見ていただきたいという思いから、あるいは明星山のにせものがある、ぜひそれを見る中で本物を見てみたいといった形の誘導を心がけております。

弱い部分もあるかも知れませんが、今後も情報発信しながら、あるいはお声がけをする中で、ぜひ実際に足を運んで石を拾ったり、また、見どころを楽しんでいただきたいというような取り組みを、進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1 番（吉川慶一君）

ただいま回答いただきましたが、その点はぜひ進めていただきたいとお願い申し上げます。

私も 148 号で見ておるんですが、やはり上がってくる方、下っていく方が、若干まだ少ないんじゃないかなと、こう思っておりますので、ひとつ力を入れていただきたいとお願い申し上げます。

それに関連しまして、駅の駐車場の件で若干お聞きしますが、駅の駐車場は多くの台数が駐車できるようにしておりますが、現在の利用状況はどのようになっているかお伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

駐車場の利用台数ですけれども、アルプス口が 118 台とめられることになっておりますし、ヒスイ王国館が 172 台ということであります。

それと 3 月は途中からの 3 月 14 日からのスタートでありましたので、合計で 1 万 9,572 台、それと 4 月から 8 月までは 8 万 2,133 台であります。そしてひと月当たりの平均にいたしますと、1 万 6,427 台が利用になっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1 番（吉川慶一君）

数値的には数多くの台数がありますが、主にこの利用形態は、何を目的として来ているのか分析されましたか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤隆一君登壇〕

○産業部長（斉藤隆一君）

駐車場の利用目的ということでありまして、3 月からは新幹線が開業しておりますので、

やはり新幹線の利用者による利用も大幅にふえている。4月からの動きでありますけれども、全体とすれば、というのはヒスイ王国館の駐車場と南アルプス口の駐車場を合わせまして、毎月でいきますと約1,500台が新幹線利用ということであります。残りはやはりジオパルも含めた利用、それから駅周辺の利用に供されているというふうに受けとめております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

1,500台、大体数はわかりましたが、そこで毎日、毎日、数多くの車がとまっていたくことは、これにこしたことはないわけですが、やはり私、提案したいんですが、この駐車場をもう少し利用できないものか。

なぜかという、イベント等でやはり使えないのかどうか。それは何だと申しますが、具体的に言うと屋外コンサートとか、キッズで使うとかいろいろあるかと思いますが、1つそういう点も大いに利用していただく、また、駅前でイベントやるときも利用していただく。こういうのをどんなもんか思っておりますが、これは要望でいいですが、これは今後、敷地の検討をしていただく中でご検討いただきたいと、こう思います。

それで先ほどもしつこいようにお聞きしますが、糸魚川ジオパークの入り込みを先ほどお聞きいたしました、どんどん計画を進めていただくことを要望するんですが、世界ジオパークの名でございますので、大いに市民をもっと巻き込んで5年、10年先を、こうしたいんだというものを見る化していただきたいんですが、お考えはないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

市民の認知度を上げるということで、教育の場面では子ども一貫教育の中でジオパーク学習を位置づけ、あるいはジオ給食を取り組む中で親子での給食を、糸魚川の食を感じてもらおうといったさまざまな取り組みを進めているところであります。

市民へ広めるというのが、ある意味、一番の課題であります。そうした中で、さまざまな取り組みをする中で、ジオパークに興味を持ってもらって行ってもらいたいと。最終的な形は何かと言いますと、ふるさとに愛着と誇りを持っていただくこと、これが一番だと思います。そういうふうにつながるように、今、ジオパーク戦略プロジェクトなどを通じまして、いろんな取り組みをしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

大いに進めていただきたいと思います。

もう1点お聞きします。

もうジオパーク検定をずっとやってこられておると思いますが、これをどのように生かされておるのか、どれぐらいの人数がもう受けられて終わってるのか、これらをお聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ジオパーク検定につきましては、平成21年度から始めております。既に6回のジオパーク検定をしてるところであります。延べの受験者数は1,304人になります。一般的なご当地検定といいますと、1年目に大きくふえまして、その後、どんどんどんどん減っていくということでありまして、糸魚川のジオパーク検定の場合、初年度は確かに多かったんですが、その後も200人から300人の今、受験者数を維持しております。一昨年の数字でいきますと、新潟検定より受験者数が多かったというようにたしか記憶しておるところであります。

つまり多くの方から受験していただいておりますが、その中の大きな要因として、子供たちがこのジオパーク検定を受験していただくと。会場へ行きますと親子で受験されているといった方も多いかと思います。

いずれにしてもジオパークを学習して、その成果を検定で確認してもらいながら、先ほど申し上げました地域に、ふるさと糸魚川に愛着と誇りを持ってもらえる子供たち、そして市民になっていただきたいなというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

1,300人の方がもう受けられておると。できることなら私の要望ですが、これらの合格者をもっと協力をいただいて、ジオパーク活動に尽力、力をいただく方法をあわせてお願いしたいと思っていますので、よろしくお願いします。

続きまして、2番目へいきたいと思います。

フォッサマグナミュージアムの海底ジオラマについて、ちょっと触れさせていただきたいなと思いました。

先ほど市長からも答弁ありましたように、結論から申し上げまして、皆さん、これをごらんになりましたでしょうか、お伺いしますが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

先日、浦本地区公民館にお邪魔いたしまして、実物を見させていただくとともに、制作者の方と

1 時間半ほどお話を伺う機会を得ました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1 番（吉川慶一君）

はい、わかりました。

私も認識なく、これを見せていただきまして、すばらしい糸魚川の海岸にありだと強く感銘してまいりました。

糸魚川市内には、海岸 40 キロにわたり連なっております。古文書、糸魚川市史によりますと、大昔、能登半島と佐渡を結ぶ線以南に、日本海で大規模な陥没があったとする説があることが古文書でもわかっております。紀元前 1000 年ごろ、田伏海岸から青海まで海岸が沈没し、この両者の間の関連については定かではありませんが、本ジオラマの要因とすることも見当たりませんでした。しかし、次のような事実が依然として存在することを着目することが、肝要かと考えております。

この間、作者とも、私、いろいろお話をさせてもらっておりますが、本ジオラマ中、海岸近くに複雑に変化している 100 メートルの等高線が存在しておりますが、その線に沿うよう丘陵に卓越した断崖絶壁が認められてることです。この糸魚川海底は、梶屋敷海脚及び能生海脚、親不知海脚が形成され、大変な変化に富んだ海底であると推測されております。ぜひこの海底形状からし、糸魚川のジオサイトに加えられないかということを考えておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

制作者の方とお話する中で、ジオパークは物語でございますけども、海底と山の関係、また、海底と火山の関係、また、海底と魚の関係と、いろんなお話を聞かせていただきました。まさにジオパークの物語性としては、非常に興味あるところでありますし、今後もそういったお話をいたしながら、ジオパークの魅力を高めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1 番（吉川慶一君）

ぜひ検討に加えていただきたいなと、こう思っております。

海のジオパークともし例えるならば、海のほうへ一段とまた認識、それから制作等が加わってくるんじゃないかと、こう思います。ぜひひとつ強力にご検討いただきたいし、また、今やっております地方創生総合戦略で、日本海から北アルプスまでのプラスマイナス 3,000 メートルの世界と表記しとります。そのためにも取り入れてはどうかと思いますので、いま一度お伺いしますが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

+

○議長（倉又 稔君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

○産業部長（齊藤隆一君）

私も制作者からのお話を聞く中で、一番印象に残ったのは海底から見えてくる糸魚川の海の地形、もちろん、今言われる海脚、あるいはまた海丘、そういった地形が漁場と非常に密接に結びついていたりとか、そういった因果関係もお話しいただきました。なるほどなというふうに、うなずくところもたくさんありました。ある意味で制作者の古文書等も踏まえた考察が、ああいう形にまとめられたんでないかなというふうに受けとめてきたところであります。

今後の活用については、市長が答弁で申し上げました。私らサイドでもいろいろそういったヒントを、もう一度しっかりと学び直す必要があるのかなという部分もありますので、今後の利活用につきましては、もう少し時間をいただければというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

ぜひ今後検討、研究の中に加えていただきたいと、こう思いますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、3番目に入ります。

糸魚川市の防災計画の見直しについてでございますが、先ほど市長からも答弁いただきましたが、非常に防災計画というのも何回となく検討され、訓練等に入っているわけでございますが、やはりやればやるほど疑問が出てきたり問題点もあるので、若干、私の観点からご質問、確認をさせていただきたいと、こう思っております。

まず、1点で避難方法、非常に県、国から発表された数値が変わってきます。これは時には研究者によって、調査によって変わるのわかりますが、やはり早く決定しないと災害はいつ、また高波はいつ発生するか全くわかりません。一日も早く計画を市民に出していただかないと、この避難方法については市民が非常に不安を感じると思います。ぜひ避難方法を市民に徹底していただくこと、また、誘導表示等々が必要が出てまいります。ソフト・ハードが両方絡んでまいりますので、ひとつ進めていただきたい。この点について、まず、誘導表示というのはもう終わったんでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

誘導表示、避難誘導の表示ということだと思います。これにつきましては、市内ではまだ十分整備をされておられません。合併前の能生町におきましては、海岸沿いの地域に避難誘導標識、ソーラーバッテリーというようなもので設置されている状況がございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

一刻も早く進めていただきたいことをお願いいたします。

それから、消防団無線について先ほどもありましたが、消防団無線は各団にも配布されておるのか。また、更新計画等みたいなものはできておるのか、確認いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

現在のアナログ式の消防団無線ですね、これにつきましては、各分団、各部に配備をされているところでございます。

新しく今進めておりますデジタル化につきましても、同様な形で今年度中に整備が完了するという予定でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

わかりました。

デジタルに伴う整備をすると、こういうことでございますが、これも一刻を争うということでございますので、ぜひ検討されてひとつ進めていただきたいし、やはりデジタルになっても全部が全部、聞こえるかどうかというのは、なかなか難しい整備ではないかと、こう思っております。これは十分検討していただきたいと要望します。

それから、公共施設の学校、保育園、福祉施設の避難方法、これは当然、防災計画に基づいておると思いますが、この避難方法の徹底は十分でできておりますか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

各施設の消防計画などによりまして、災害の種別ごとに避難方法というものが定められております。それによりまして、定期的な訓練を実施しているというところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

続きまして、ここで先ほどにまた戻るような話になるのですが、非常に観光客が入っております。

+

旅行者、観光客等々の誘導マニュアル、これをどのような計画になっているのか、そのマニュアルができておるのかどうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

観光客等々の誘導マニュアル的なものは、まだ作成されておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

早急に進めてください、ぜひ。

続きまして、新潟焼山について若干お聞きいたします。

新潟焼山は登山解禁になりまして、登山者が入っております。この登山者、どういうふう
に把握されておりますか、お伺いしますが、また、それらの人たちの連絡方法はどのようになっ
ているのか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

最近の登山者の数というものの把握は、十分できていないのが現状でございます。この噴火の関
係を受けまして、新潟県で登山届というものを整備をいたしました。それによりまして、登山者に
ついては登山届をポストに入れていただくというところでの把握ということは、できるかというふ
うに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

登山届で把握、これは県条例であることは承知しておりますが、糸魚川の場合もやはりすぐにわ
かるような連絡方法、マニュアル、しっかりとしていただきたいと思います。また、その人たちに
どう情報を周知できるのか。今は携帯電話というものがあるんですが、携帯電話がつながるかどう
かも、これはわからないわけですね、こういうものは。それで果たして入山者がどれくらいある
かどうか、これらもやはり重大な、避難誘導するかに影響が出てまいります、ぜひ把握していただ
きたいと。

それから避難用シェルターが1カ所あると、こうお聞きしとるんですが、全体で1カ所でいいの
かどうか、この辺の規定があるのかどうか。じゃあ何人登っていて、そのシェルターで間に合うの

かどうか、こういうものが把握されているのかどうか。もし災害があったときの初期対応はどうなっているのか、こういうものができているか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

シェルターのことでございますけれども、現在、唐沢に、ボックスカルバートといわれるコンクリートの四角のやつですね、こういうものが設置されております。そこは約二、三十人は逃げれるのかなということですが、いかんせん山頂からの距離がございます。いざというときには、なかなか間に合わないという状況がございます。現在、市長も中央のほうへ、シェルターの設置等々につきまして要望等をいたしていただいておりますけれども、環境省ほか森林管理所等々の関連もございまして、なかなかその話がまだ現在進んでいないというところではありますが、鋭意、要望等も行いまして、設置できる方向で進めてまいりたいと、要望してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

それもぜひ要望していただいて、1カ所でなくして安全をとっていただくように、避難できる場所に設置を要望いたします。

それから、地震津波について若干お聞きいたします。

先ほど大筋のことはお聞きいたしましたが、まだまだ県の見直しがないからはっきり言えないでしょうけど、実際、避難場所が、10メートルの高波が来ると想定されながらも8メートルのところに避難所があると。こういう見直しはされたのかどうか、いま一度確認いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

より高いところへ避難をとということで、検討を進めていただいている地区もあるわけですが、今出たものは想定で、概略計算によるものというものであります。最終的には、県の調査結果を踏まえましての検討ということになるかと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

県と十分協議し、早急に見直しをしていただきたいと思います。

先般、土砂災害防災訓練でありましたが、参加できない地区もございました。全市で防災訓練を

やはりするべきでないかなと、こう思います、この点についてお伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

想定する災害の種別や地域事情も考慮しなければなりませんけれども、できるだけ全市一斉の防災訓練を実施したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

市民こそって訓練ができる環境をつくっていただきたいと思います。

それによって若干要望ですが、どうも地区によっては防災訓練のなれが出てるところもあって、現実に参加不足の地域が見受けられます。さきの結果、データも行政側からいただいたんですが、やはりまだ不足なところが私はあると思うんですが、この辺についてお考えをお伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

防災訓練につきましては、全市一斉で行ったものが平成24年度からやっております。津波の訓練を2回、平成26年度、平成27年度と土砂災害、河川氾濫という形で訓練を実施をしております。

参加人数につきましては、今回、天候もよかったこともありますけれども、過去最高といえますが、昨年に比べても3,000人の増ということで、約9,000人の方が参加をしていただいております。そういう意味では、関心が高いのかという判断もできるかというふうに思います。

今、議員が言われる、なれというところでありますけれども、訓練を実施することで、災害時の対応を身につけるということが出来るわけでありますけれども、訓練のマンネリ化の防止というのも課題の1つかなというふうに考えております。

また、地区によっては訓練の熟練度と申しますか、そういうところに差があります。一律の訓練を実施するということでも難しさもあるわけでありますけれども、いずれにいたしましても、繰り返しの訓練というのが重要だというふうに考えておりますので、今後も工夫をした訓練を実施してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

重ねる訓練をひとつよろしくお願いします。

それから消防団のことでちょっとお伺いしますが、地域によってはもう団員確保に大変だ、また、定数不足が出てるところがあります。これらに伴って、消防団員の活動マニュアルというものができておるのか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

東日本大震災後、特に津波に対する活動マニュアルというものを作成をいたしまして、消防団員の皆さんに周知済みであります。そのほかの災害等については、現在、マニュアルは作成されておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

最後に要望いたします。

防災アドバイザー、もしくは防災士、こういう方が糸魚川にいらっしゃるのかどうか、これをお聞きし、また、こういう方を今後どのように計画の中に加えて訓練を行っているか、最後にそれをお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

当市では防災アドバイザーの選任は行ってはおりません。防災士の資格取得者は、現在35人です。当市では自主防災組織のリーダーの皆さんを対象に、毎年、防災リーダー研修を実施しており、このリーダーの方々と地区におられる防災士の方が連携を図り、実践的な訓練などをして効果を上げている地区もあります。このような形で、今後も防災士の方々に協力をしていただければというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

ぜひ活用していただく、また、協力していただくようお願いを申し上げまして、質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（倉又 稔君）

以上で、吉川議員の質問が終わりました。

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。〔20番 古畑浩一君登壇〕

○20番（古畑浩一君）

古畑浩一でございます。

これより通告書に従いまして一般質問を行わせていただきます。

1、糸魚川白嶺高校の学級減と人口対策について。

(1) 本年7月6日に示された平成28年度から2カ年の高等学校等再編整備計画案において糸魚川白嶺高校の現状4学級を3学級にすることが示されましたが、糸魚川白嶺高校は、地元就職率も高く、貴重な人材を輩出する地元に着した教育活動を行う地域貢献度の高い学校であります。現在糸魚川市では少子高齢化に歯止めをかけるべく計画案を策定中であり、同校の学級減は若者の地元定着に対しても著しい悪影響を及ぼすと考えますがいかがか。

(2) 現状を鑑みても、本年入試では糸魚川白嶺高校は倍率0.98倍であり、著しい生徒減とはなっておらず、昨年、学級減となった海洋高校は倍率1.14倍となっており定数を上回り、糸魚川白嶺高校が学級減となった場合、地元高校への進学が困難となる生徒数が今後50人を上回ることが予想されますがどうか。

(3) 学級が減らされることにより、部活や課外活動、新学科創設にも多大なる悪影響を及ぼすことが懸念され、魅力ある学校運営に支障を来すこととならないか。

(4) 糸魚川市には私立高校はなく、地元高の受入数が減少した場合、上越市や富山県等、市外の高校に地元の子供たちが流出することとなり、保護者の負担増や片道1時間程の通学による不便さを強いることとならないか。

(5) 進路指導も決定し受験準備の時期となっており、余りにも早急であり、子供たちの気持ちや将来を考えない一方的な計画案と考えるがどうか。

(6) 新潟県教育委員会に対して、単に人口動態の推移だけで判断することなく、地域の事情を勘案し、糸魚川白嶺高校の学級減の計画案を白紙に戻し、現行の学級数とすることを、強く求めるべきと考えるがどうか。

また、関連して以下の質問にもお答えください。

(7) 地方創生戦略プラン・人口ビジョンに対する影響はどうか。

(8) 8月19日、県教育委員会に行った要望内容と回答。

(9) 学校・保護者へはどう説明するのか。

(10) 県教育委員会と信頼関係は回復できたのか。

(11) 一連の不祥事や学校給食異物混入など、教育委員会の危機管理能力に疑問を持つが大丈夫なのか。

(12) 第三セクター鉄道移行後の通勤通学に支障はないか。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

1点目から6点目までにつきましては、学級数の減による影響は議員のご指摘のとおり、生徒や保護者への負担増のほか、若者定着に対しても影響があるものと考えております。

したがいまして、県教育委員会に対しまして口頭ではありますが、学級減に対する遺憾の意を伝えてまいりました。

7点目につきましては、地方創生総合戦略では、教育環境の充実を掲げており、若者や女性、子育て世代などの移住や定住を促進するためには、影響があるものと考えております。

8点目につきましては、生徒数が減少していく中で、糸魚川白嶺高校の魅力ある学校づくりを進めていくことが重要であると考えており、糸魚川市固有の地域資源を活用した専門知識を学ぶ教育課程の創設への支援、また、広域からの生徒入学を視野に入れた魅力ある学校づくりを進めていただくよう要望したものであります。

県教育委員会からは、中長期高校再編整備計画の中で検討する旨の回答をいただいたところであります。

9点目につきましては、学校を通じて保護者、生徒へ進学の説明会を行ってまいります。

10点目につきましては、県教育委員会とは良好な関係が続いております。

11点目の一連の不祥事につきましては、市民の信頼を裏切る結果となってしまいましたことに対しまして重く受けとめており、教育委員会が一丸となって信頼回復、再発防止に取り組むよう要請してるところであります。

12点目につきましては、朝の通勤通学時に混雑している状況であるため、引き続き、えちごトキめき鉄道へ車両増設を要望いたしてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

それでは、これより2回目の質問をさせていただきたいと思います。

さて、これは私、本年7月6日に示されました突如の方針変更で、糸魚川白嶺高校が学級減にされると。どうしても納得できないというか、疑問が日に日に増していくんですよ。

そこで最初にお伺いいたしますが、なぜこんなに唐突に糸魚川白嶺高校の学級減の方針が示されたのか。その経緯について詳しくお聞かせをいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

平成28年、平成29年の高校再編整備計画の中では、従来は糸魚川白嶺高校は現状維持という方針で昨年度あったものが、唐突に急遽、7月の上旬に白嶺高校が1学級減になったというのは、誰も予測はしておりませんでしたし、後でお聞きしますと白嶺高校そのものも、その直前まで知り得ない情報であったということでもありますので、いまだにその理由については、私どもも承知できない状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

いくら何でも唐突過ぎる、早急過ぎる、突発過ぎる、これもちっと後ほどまた細かく聞かせていただきますが、人口動態については、将来推計の中でも厳しい数字を予想しておりますよね。そこで今回、戦略プランや人口ビジョンを制作してきたわけですが、この学級減については、こうしたビジョンの中で、本年度、学級減になるということは想定済みなんではないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えします。

学級減については、想定しておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

いいですか。昨年示された方針案の変更、いわゆる今回、白嶺高校の学級減でありますけど、この方針変更が7月ですよ、そして最終決定が来月の10月、そして来年の3月には受験というスケジュールです。何度も申しますが、これはあまりにも早急であって、これが計画行政と言えるんでしょうか。県の都合もあるとは思いますが、糸魚川には糸魚川の行政計画というものがあると思うんですが、これは果たして計画行政と言えるんでしょうか、お答えください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

県の計画の変更について、それについてのコメントは私どもは持ってありませんが、議員と同じような感触は持っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

そこで市長におかれまして8月19日、県教育委員会に対して要望活動を行っていただいた。そこでその要望内容、これ私も入手したんですけど、きょうちょっと忘れてきましたんで、これ全文をちょっと朗読していただいけませんか。短い文書だったんで、そんなに時間はかからないと思うんですが、要望の内容につきまして、全文の朗読をお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

暫時休憩します。

午後2時10分 休憩

午後2時10分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

○教育次長（竹之内 豊君）

それでは、読み上げます。

要望書

日頃、当市の教育行政に格別なご配慮を賜り厚くお礼申し上げます。

糸魚川市は、北は日本海に面し、南には活火山新潟焼山や3,000メートル級の北アルプスの山々を有しております。併せて、眼前に迫る岩山や清流姫川など美しい景観と自然の恵みが豊かで、文化遺産も数多くあることから、平成21年にユネスコが支援する「世界ジオパーク」に日本で初めて認定されています。

反面、複雑な地形と地質構造が、古来より地すべり、土砂崩落、土石流、地震・火山災害、雪崩など、多種多様な自然災害を繰り返し発生させている地域でもあります。

変動する大地を肌で感じながら、大地の成り立ちや自然災害の発生メカニズムを学ぶことは、防災を担う人材の育成に有効であり、糸魚川ジオパークはその絶好のフィールドであります。

また、その大地が生み出した景観、文化、歴史、糸魚川市固有のヒスイや食文化など、魅力的な観光資源が多く、観光・体験メニューの開発、地域特産品開発など、観光コーディネーターとしての専門的知識、スキル等を身に付けるにも最適な地であります。

これまで糸魚川白嶺高等学校は、総合学科校として、地域社会に貢献する人材を輩出してきておりますが、これらの地域資源を活用した専門知識を学ぶ教育課程を創設することにより、ふるさと糸魚川の未来を担う人材の育成、さらには広域からの生徒入学も期待できます。

つきましては、下記について特段のご配慮を賜りますよう要望いたします。

記

1 糸魚川白嶺高等学校の、地域の特色を生かした教育課程の創設に支援いただきたい。

2 広域からの生徒入学を視野に入れた魅力ある学校づくりを進めていただきたい。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

これ全文朗読していただきました。ありがとうございました。

やはりどうしても、私、これ読んだときにファーストインスピレーションで感じたのは、これは何の要望かと思いました。

市長、白嶺高校の学級減、もしくは現状維持を求める要望書ではなかったんでしょうか。なぜ学級減、あるいは現状維持については、1行も明記されていないんでしょうか、お聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

市といたしましても、やはり2年前だったかと思います。非常に少子化にこれから入っていく状況の中で、糸魚川市内に3つの高校は絶対必要だという中で、やはり個性、特徴をしっかり持っていくことが、魅力ある高校につながるんだらうということで、その旨をお願いに参っておったわけでありまして。

そういう中で、今回、こういう形になったわけでありまして、我々といたしましてもそういったこの条文につきましては、保護者、PTAと一体となって作成させていただいて、そして要望書になっておるわけでありまして。その辺のことで魅力ある学校をつくっていくことが、やはりまず一だということで、この要望をさせていただいて、そしてその中で、これに至った経過は、やはり学級数の減というのが大きい事柄であるので、ぜひとも要望させていただきたいという話をさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

当初、昨年策定されてきた県の計画案の中では、1クラス減は、上越総合技術高校でしたよね。それが地元の反対によって白紙撤回され、そのあおりを受けたような形で、糸魚川白嶺高校の学級減につながっていった。

さて、猛烈な反対行動を起こした上越地区でありますけれども、ここに昨年、2014年10月10日の新聞記事があります。同窓会、PTAと上越3市、学級維持を求め要望。関係者が9日、見直しを求めて県教育委員会に要望書を手渡した。上越3市選出の県会議員7人も同席をした。要

望書は上越市、妙高市、糸魚川市の各市長、商工会議所、選出の県議らが連盟して出していると。
市長、何で上越総合技術高校のときには、しっかりとした学級維持を求める要望書を提出しておきながら、地元の糸魚川白嶺高校のときには学級減反対、もしくは現状維持を要望するということができなかったんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

上越総合技術高校の場合には、要望書を、ぜひ一緒に署名してほしいということで来たことで、我々といたしましても協力させていただきました。

今回もやはり白嶺高校の後援会、PTAの皆さんと要望に来られて、そういう話になって、私はそれに同調させていただいたわけであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

市長は同調した。もともと今回の要望書の原案は、誰が作成したんですか、原案ですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

今、私が読み上げた要望のもとになっていることは、白嶺高等学校の校長、同窓会長等が市長と面談した折に話し合われたこと。それをこういう内容で要望しようという話し合いのもとに、私もこども課でたたき台をつくり、それぞれの皆さんから確認をしていただきました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

私の聞いた話とちょっと違いますけどね。今、話が出た中でも同窓会長や、また、同席された新たな県議会議員は口頭でしっかり反対したという。その回答については県教育委員会では、どのような回答をされてきましたか。それから市長は口頭で、どのような伝え方で、この学級減に対して反対をされたんですか、お聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり学級減となるのは非常に地域といたしましても不安や、生徒に対しては非常にやはり影響が出るので、ぜひともこういう形で我々は反対させていただきますという形では言いましたし、そして、それにはやはり魅力ある高等学校をつくってほしいという要望を強くさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

それは市長が、ご自分の言われたことですね。じゃあ同窓会ですとか県議は、どのように言われたのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

当日の私の拙いメモでございますが、7月7日の報道を見て戦慄が走ったと。その後、同窓会やPTAの会の中にも非常に要望をするべきではないかという声が高まってきた。その後、いろんな県からの説明も聞き落ちついてきたところであるが、なぜここで白嶺高校が減だという声は今もあると。市とも相談の上、きょうは要望に参ったということを同窓会長はおっしゃられました。

それに対する県の回答では、確かに当初の計画ではなかったけれども、生徒数の減少はいかんともしがたく、ここ糸魚川だけではなく他の地域の学校でも定員減とせざるを得なかったということであり、要望書に書いてある趣旨については、それに沿うよう検討したいというふうな回答をいただいたところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

県教育委員会の回答は、要望書に書いてある要望事項につきましては、今後、検討していきたいという答弁だったんだね。しかし、今回、糸魚川市が出した要望書には、学級維持と学級減については1行も書いてない。これは糸魚川市は、糸魚川白嶺高校の学級減を認めたということになりやせんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

要望に行く前段の協議の中でも、議員言われるように7月という非常にもうタイムスケジュールのない中での県教委の発表は、これを白紙撤回ということを求めて要望したとしても、非常に難しいであろうということでの要望活動を計画したわけでございますので、これを認める、認めないではなくて、実のある糸魚川地域の声を聞いていただくための要望ということで、そのような要望書

にまとめたというのが流れでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

先ほどの答弁のように、白嶺高校が1クラス40人減らされること自体、糸魚川市全体に大きな影を落としていく。これはやはり形としても非常に厳しいことだと思うんですよ。単に人口の推移だけを基準とされていった場合、昨年は海洋高校、ことしが白嶺高校、じゃあ次は糸魚川高校ということになる。県の方針でどんどん削られていってしまったら、糸魚川市のような周辺に、県内の自治体がなくて距離的な不利なところは、減らされていく一方じゃありませんか。

それから今後の子供たちの数等で勘案された結果、白嶺高校とされたということなんですけど、ことしの卒業生と来年の卒業生を比較した場合どうなりますか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

平成28年3月末の市内の中学校を卒業する生徒の数が383名、平成29年度は一時的にふえまして395名、その翌年が357名に減少するというような数字でございます。

○20番（古畑浩一君）

ことし、平成26年度を言ってない。

○議長（倉又 稔君）

暫時休憩します。

午後2時23分 休憩

午後2時23分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

失礼いたしました。

369名であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○ 20番（古畑浩一君）

すらっといかなかったから、ちょっと皆さんわかりにくかったと思うけれど、平成26年度の市内4中学校の卒業生は369人ですよ。これに対して来年の3月、383人、再来年度は395人、減るところかふえているんですよ、増加傾向なんだ。

それから入試の倍率にしてみたって、過去5年間を平均した場合、糸魚川高校で0.956倍、白嶺高校で0.954倍、それは1つの指針となる1.1倍から比べれば、満たしてないと言われれば満たしてませんが、わずかな差ですよ、このわずかな差。そして少なくとも今回の計画の中身となる2カ年の子供の数は、減少じゃなくて増加するんですよ。何で減らされんならんのですか。何でそれに対して教育委員会として、糸魚川市の子供たちを守る市長の立場として断固抗議しないんですか。しかも7月策定して10月決定なんて、わずか3カ月ですよ。こんな乱暴なやり方、誰が見てもおかしいじゃないですか。市のトップとして、断固抗議するべきだと私は思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々としては、やはり学級数もさることながら、いかにこの糸魚川で3つの高校を守るかということが、やはり一番最大に思っておるわけでありまして、そういったところへ早く進めていかなくちゃいけないということで、我々是对応していきたいと考えてる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○ 20番（古畑浩一君）

それではそうした魅力ある学校づくりということなんですけど、これは3番のほうに移りますけども、それでは世界ジオパーク、この地理に特化した学科というものを新設したとして、生徒は本当に集まってくるんですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

決してジオパークに特化したということではなくて、やはり糸魚川の魅力をどうやって出していくかということが大事だろうと。そういう中には、こういうものもありますという1つの例に出してるわけでありまして、それをやはり早目に見つけなければ私はいけないだろうと思っております。海洋高校みたいに、やはりしっかりとした方針をしっかり見つけることが大事だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

いいですか。例えば白嶺高校に新学科をつくってほしいという要望はいろいろあります。もうはっきり言えば、前の商工時代のほうがいいと。商業簿記や工業に関するさまざまな技術や資格が取れる、こういったほうがいいと。それから市長が言うように、観光系のビジネス等の資格が取れるような学科がいい。じゃあ今回要望した新設学科の具体的な科目をどのようにして決めて、どのようにして要望していくのか、この辺の具体案はどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

それを早急にやはり見つけなくちゃいけないだろう。今、議員ご指摘の点も私も伺ってるわけでありまして、そういうものをしっかり早目に見つけて、そしてそれを位置づけすることが大事だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

早目に急いで、そのとおりです。しかし、今の段階ではないですよ。ないんですよ。来年の3月に学級が減らされると言ってるのに、今どんな新設の学科をつくるかって考えてる暇がないんです。ここはさっきも言ってるように、今後2カ年の計画の策定なんです。

先ほど竹之内次長にもお話をいただきましたが、これは悲しいことでありますけれども、2年後、いわゆる3年目の卒業生については、中学校の卒業生ですよ。先ほどご指導いただきましたとおり、今の1年生になりますね。ここが357人、大きく減らします。このときなら私はしょうがないと思うんですよ。

いわば市長、この2年間で踏ん張りどきなんですよ。何とか現状維持、これを教育委員会にお願いして、その2年間の中で市長が要望した魅力ある学校づくりや、どのような糸魚川の特徴にある、また、糸魚川が求める人材をどうつくっていける魅力ある学級をつくるかを、2年間かけてしっかりとリサーチして、教育委員会にも学級を減らすんなら、こういう魅力ある新しい学科をつくってください、交換条件でいきやどうですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私もやはりそういう危機意識を持っていたからこそ、2年前から働きかけをしてきました。しか

+

し、学校としては何も立ち上げてないのが実情でございます。

そういう中で私はこういう形になったということで、非常に私自身も本当にさらに危機意識を持った中で、今回対応させてもらったわけであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

市長、今回は批判じゃなくて強烈な応援コールだと思って、もう1回、闘志に火をつけてほしいと思うんです。

それから魅力ある学校づくりというのは新学科や、何て言いましょうかね、さまざまなカリキュラムだけではない。それだけが高校生活の全てじゃありませんよね。スポーツや文化活動、ボランティアなど多種多様な活動をする機会というのは、私は必要だと思う。そのためには生徒数が多ければ多いほどよいんですよ。40人も減らされていってしまったら、部活として成り立たないところがたくさん出るんです。

例として言えば、糸魚川白嶺高校野球部は、昨年の秋季大会は部員不足で海洋高校との連合チームで出場。ことし春の大会への単独出場は絶望的な状態だったんです。しかし、地元高校を盛り上げようとする多くの中学生たちが、新入部員として15名も入ってくれたことによって、伝統校の野球部が存続することができたんです。こういう地元愛が芽生えているときに40人、1クラスの学級減は大きな弊害となるのではないのでしょうか。この辺をいかがお考えでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

私も今、第1回目でお答えしたように、いろんな面で影響が出るということは承知ですし、今、議員ご指摘のとおり、そういったことにも影響が出るものと捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

先ほど市長は2年前から、魅力ある新しい学科の新設ということを要望されてきた。糸魚川は全くそういう声は聞かれませんでした。今回、高田に医療系の子供たちのための専門コースとして、メディカルコースができましたよね。私、これすごく魅力的な学科だと思うんですよ。これは今度、糸魚川高校を志望されるような方々が、それなら高田高校へ行きたいという、今度、そういう流れになっていきませんか。新しくて魅力的なもの、医療従事者の資格が取れるような。進学校としても現在、今厳しいのは、はっきり言って白嶺高校より糸魚川高校ですよ、倍率の関係からいっても、市長の母校です。進学校だって今、生徒の取り合いなんですよ。白嶺高校だけではない、糸魚川高校等も新たな魅力ある学科、学級というのは、私はつくっていかなくちゃいけないと。これについていかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

その旨、やはり学校のほうからも情報をいただいております。そういった形で、今、自分たちはどういう形に進んでいるのか、どういう方向に向かっているのかというのをやはり市内の学校から聞くわけですが、やはり前が見えない形では困るわけでありまして、自分たちはまだ見えてないけれども、こういう方向に進みますよ、こういう形でいきますよということで、今、いろんな面で活動しておるところは非常に我々も受けて、行政としても応援しやすいわけであります。

ただ、しかし高等学校につきましては県の教育機関でございますので、やはり学校自体がどうやってまとまっているのか、やっぱり教育委員会とどのような形でいくかというのが私は重要だと思っております。

それに対して、市もやはり一体となって動いていかなきゃいけない。我々の意向もかなり強いものがございしますが、それにはやはりその学校がしっかりと色を出して、海洋高校みたいなやつは、それに対しては我々は幅を超えても、何を差しおいてもやろうじゃないかというような気持ちになるわけですが、何もないと我々も動きようがない部分であるわけでございますので、その辺は学校のやはり主体性も私は大事にしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

市長、何のために0歳から18歳までの一貫教育を打ち出したんですか。そのもとになる部分については私も、今、市長がおっしゃるとおりのことで、地域が求める人材を地元の高校からつくってもらおう、教育してもらおう、それで中高連携だと、そういったことを強化すべきだと私も提案してきた。

今の市長のご答弁では、それらの実績が上がってないことになる。やはり私はそういった部分の時間も、危機感に立ってやる必要があるんですよ。だから何度も言いますが今回は学級維持、これに努めて、2年間の猶予期間の中で、そういったことをじっくり考えようではありませんか。

それから4番のほうに入っていきますけれど、糸魚川市には私立の高校がないんですよ。すると約1時間、富山県に行くか上越市へ行くか、そういう中の通学の不便さや保護者の負担増ということも、かなり著しくなるんですよ。これらについては、教育委員会は検討した結果はありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

内部でいろいろ白嶺高校の定員が減った場合に、どうなるんだろうかというような話はさせていただきました。そして市長答弁にもあったように、保護者や生徒の負担増の可能性もあるだろうし、

+

それから地元への若者の定着、それから古畑議員も出しているように部活動への支障等も生まれるであろうと。さらに輪をかけていくと生徒数が減った場合、まちの活気がなくなっちゃうんじゃないかと、あるいは学校の活力がなくなっちゃうんじゃないかと、そういうようなところまで話し合いました。

その後で学校全体というか、３年生の進路状況をきちんと確認させてもらいました。もちろん一貫教育の中で、１５の春に泣くような子供をつくりたくないというのが本音です。白嶺高校の進路状況を調べたら、６割が進学なんです、そして４割が就職なんです。そのうちの約４０人ほどが県内、市内ですかね、それからあと残りの１０人ほどが県外へ出て行っていると、こういう現実でした。

そういう分析をした上で、ひょっとしたら保護者、それから子供たちの進学に対する考え方も変わってくるんじゃないか。例えば私は入り口が大事じゃなくて、出口が大事であるっていう捉え方ができれば、大学へ進学する、あるいは短大へ進学する、専修学校へ進学するのであれば、できれば糸魚川高校のほうへシフトしていく。そういう考え方も生まれてくるのではないかなというような発想も教育委員会内部ではいたしました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○２０番（古畑浩一君）

過去のデータを見ると、今、教育長が言われた情報、方向性というものは、まだ立証されてませんよね。来年度の子供たちの意向というものは、ことしまでの意向では、そうじゃない結果が出てますよね。平成２７年度の糸魚川高校の倍率は０．８７倍、白嶺高校が０．９８倍、海洋高校が１．１倍。海洋高校がずば抜けて人気あるわけじゃないんですよ、これ。１クラス減らされたからです。１クラス多かったら、これもまた減ってる状態だ。それはだから厳しい状態はわかる。

それから白嶺高校を志望した生徒が、全体の募集の枠は４００人あるんですね、定数は４００人あります。その中において先ほども言いましたけども、来年度は３８３人ですから、定数論からいきや定数を下回るとるんです。ところが、じゃあ白嶺高校を志望した子が糸魚川高校へ行くか、２次募集で、その辺についてはどう分析します。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

定員が１倍に満たない場合は、２次募集をすることができることになっておりますが、学力の状況ですとかということを考えますと、白嶺高校を受験をして２次募集で糸魚川高校にということは、あまり実情としてはないように思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○ 20番（古畑浩一君）

市長、学力だけの問題じゃない。大学へ進学したいか、いや、自分は働きたい、または専門的な知識を身につけたい、さまざまな理由で子供たちは進路を選ぶんです。それに、もちろん教育委員会の人には釈迦に説法ですけど、2次募集を受ける権利というのは、どこの高校にも受かってない場合なんです。

白嶺高校の倍率が高くなるということになれば、当然、滑りどめで私立を受けますよね。私立が受ければ2次募集に回することはできません。どうやっても定数と卒業生だけでは、どれだけの余裕があるかを計算できないんです。したがって、私がここではじき出したのは、1クラス分というのは海洋高校等行けなかった子を含めて、約50人が地元の高校に定着できないんじゃないかという数字を割り出した。これいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

そういう捉え方もできるかもしれません。

ただ、これも新聞報道によりますと、県の教育委員会の言い分では市内の383人に対して高校定員、3校で400人が用意されておりますと。ただ、そこで私どもが疑問を持ちますのは、その383人のうちの毎年50人前後は市外の高校を受験されるということ。逆に市外の中学校から市内の高校3校へ、その倍ぐらいの人数の人が通って来るということでありまして、その差し引きが定員の中で食われていくとすると市内全体では、平成28年度においては30人ぐらいが影響を受ける人数かなというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○ 20番（古畑浩一君）

30人のわけないね。何と言いましょうか、1クラス減った場合の想定でいけば。それから今言われるように、直江津や名立というところからも糸魚川へよく来ていただけてますよね、総合学科。上越総合技術高校だって倍率低いわけじゃないんですよ、1.3倍。ここを私も計算したら5カ年で大体1.3倍ぐらいあります。だから白嶺高校がだめなら、じゃあ上越総合技術高校へ行こうかなんていうわけにもいかん。やはり直江津や名立の子供たちの取り合いになってますよね。それを頭に入れておいていただきたいと思いますと思うんです。

それからこれはやっぱり、例えば先ほど田中議員もご質問されてましたけど、こういう苦情も来てました、今回の取材の中で。第三セクター鉄道以降後の通学に大変支障を来している。3両あった列車が2両になって、朝は混雑し過ぎて海洋高校の子供が遅刻した。帰りはさらに1両になって、ぎゅうぎゅう詰めで座ることもできないと、身動きができないという苦情が来とる。これについては、どのように緩和していくおつもりですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

先ほども田中議員のご質問にお答えしましたけども、混雑してることは間違いございません。

それについては、やはり緩和をする方向で増設なり、快速の時間変更なりというものを求めているというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

だから渡辺課長、そこら辺が何か人ごとみたいに聞こえるんですよ。いいですか。例えば現状においても乗り切れない子供たちがいる。また、乗れたとしてもぎゅうぎゅう詰めだ。そこに来年、また1クラス減った分で市外に流出する子供が入ったとしたら、さらなる混雑になりませんか。そこは想定してますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

今までの要望の中では、そこまでは想定はしておりませんです。それは決まったということではないというふうには思っておりますけども、その辺のところの状況も見の中で、やはり要望はしていかなければいけないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

市長、通学列車1本とっても準備できておりません。こういう現状もやっぱり県に伝えていただきたいんですよ。急に言われたって、こっちにも都合があるということをしっかり県に言ってほしい。

それから何か本当に残念なのは、どうも糸魚川市は、このまま黙って受け入れるんじゃないかということで、非常に地域に不安も広がってます。ただ、私の取材の中では県教委は、こうした学級減については地元が反対することは当たり前であり、地元の反発によっては方針変更もあり得るとの情報も入っているんですよ。そのいい例が、今回の上越総合技術高校ですよ。そういったことを教育長、どのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

上越総合技術高校の場合に、現状維持という形で方針が出されました。ただ、同じく県内を見て

いくと白根市の場合に、運動を起こして１年間だけ学級維持というような状況もありました。ただ、ことし見てみると、ことはもう１学級減ということで動き始めております。それも話は急であったということで聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○２０番（古畑浩一君）

すばらしいじゃないですか。それでも１年間の猶予期間を取ったんだ。やればいいんだよ、糸魚川市だって、本当に。

それから進路指導も決定して受験の準備になっている、この段階、受験生とその保護者の気持ちを全く無視した強引なやり方、これには大きな疑問を持ちます。あまりにも拙速で乱暴なやり方。これ学校や保護者には、どうやって説明していくんですか。私も取材してきましたけど、現場は混乱して、受験生にも動揺を与えてますよ。こういう姿があっていいんですか、教育委員会として、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

議員のご心配のとおりかと思えます。８月には進路に大きく関連をします、模擬試験のようなテストもございました。それも進路決定には大きく子供たち、また、保護者とも相談をしながら進路をこれから、その結果を見ながらそれを相談していくわけですが、今回の急な１学級減というところについては、非常に不安を持たれてる保護者の方もおられるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○２０番（古畑浩一君）

やっぱりこうした動きに対して、来年の受験生の保護者を中心とした中学校ＰＴＡによる、学級減に対する反対する署名運動が、現在、行われております。こういった活動について、どのように行政としては捉えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

ＰＴＡの自主的な取り組みだというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

金子部長、あまりにも血の通った答弁とは思えませんね。

金子部長、あなたが商工観光課長だったとき、私がPTAの役員やっとなるとき、わざわざ学校まで来て、子供たちに地元就職してくださいってお願いをして、その後、地元を希望する子供たちがふえた実績を上げた方じゃないですか。何ですか、それ。まあそういう団体の方が勝手にやってるんで、私たちは知りませんって聞こえるよ。市民の皆さんがせつながってるということですよ。市長にも、もう1回しっかりと要望していただきたいという思いで、今、動いているんじゃないですか。

先ほど私だけが決めたんじゃない、白嶺高校の同窓会長とPTA会長と決めた。そのときじゃあ来年受験する中学生の親御さんですとか、学校関係者とは意見は交わしてなかったということじゃないですか。何でもっと幅広く糸魚川全体の問題として考えて、多くの人の意見を聞いて県に対して要望に行かなかったんですか、どうなんですか。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

今、署名活動をされとるという話も聞いておりますが、それはまだ糸魚川中学校だけということで、やはり市内の中学校が、連携してるという状況ではないというのも私は情報で聞いとるんですが、やはりそういった意見を聞く、時間的に私たちも動いたときには、まずは白嶺高校の後援会とPTAの皆さんが来たわけでございまして、広く意見を聞くという場を持たなかったのは事実でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

市長、そのとおりなんです。3カ月という期間は、広く意見を聞く暇も与えないんですよ。あり得ませんって、これは絶対抗議ですよ。たとえこういうふうに、今後2カ年だけについては増加してるってようなデータがなかったとしても、わずか3カ月で決定する、猶予期間も反対する暇もない。糸魚川では反対する声も上げることができないんですかというせつない、何と言いましょるか、ご意見も私、伺ってます。やっぱり過去、上越総合技術高校や、先ほどお話があったように急な変更については、やはり私は抗議するべきだと、これももう何度も申し上げます。

市長、できなかった理由を今述べてましたけれど、私は逆にそういった声、署名が別に糸魚川中学校だけであったとしても、たとえ1人の親御さんの声であったとしても、それを県に伝える役目というのは、糸魚川の行政の長にはあるんじゃないですか。要望は行ったけれど、さらにこういう要望があります、こういう署名が集まりました、県教育委員会といたしましてもご一考をいただきたい。それをやるのが行政の長じゃないですか、糸魚川のトップじゃないんですか。単に1中学

校だけがやっでることだ広がりがなかつて、それは理由にならないと思いますけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々も聞いている1つの情動的には、聞いているのと、また今、我々が実際に調べたのと多少違うわけでありまふので、その辺についてもやはり説明をしっかりとらわなくちゃいけないとは思っております。

そういった形で我々は県の教育委員会と、まだはっきりと知らせるところも必要だと思っておりますし、今、そういった活動があるのも承知しとるわけでありまふが、しかし、その進め方等についても問題もあるというようなことで、またご指摘もいただいてる部分もあります。しかし、結果的には内容よりも、そういった1つの考え方だろつと思つとるわけでありまふので、そういったところをまた県のほうにも申し入れして、進めていきたいとは思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

やはりより多くの市民の声、あらゆる部分で出る言葉、切実な言葉、やっぱりそういうのを真摯に受けとめて、行政の長として、しっかりと県のほうに私は伝えていただきたい。もちろん、今のご答弁で伝えていくというご答弁でありましたから、私はそれでいいと思いますけれど、やっぱりしっかりとした耳をやっぱり開いて考えていただきたい。

それから地方創生の戦略プランや人口ビジョン、この間、発表されました総合戦略の素案、この中にも地元定着支援だとか、やはり若者支援、教育環境の充実といった項目もあります。この辺に書いてあることが絵に描いた餅にならないように、今、やっぱり1人でも子供たちを外に出さないような努力。特に学級減をなるべく前に、先に送って、何とか地元でふるさと愛、また、地元の企業等に必要とされる人材をやっぱり育てて地元に残っていただけるかと。それをやっぱりこういう戦略の中で、私は実現する必要があると思ひますが、これはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

その地方創生、今、総合戦略を作成する前から、私はやはりそういった意味では危機感を感じておりました。しかし、地域に学校は絶対に必要だという形の中で、そういう活動をさせてもらってきました。それをさらに、今、議員ご指摘の方向もあるでしょうし、我々も提案した方向性もあるでしょうし、それはやはりこの生徒たちの考え方、そしてまた最近の動向を見ながら、魅力をどう

やってつくっていくかというのは、早急に立ち上げてもらいたいなと思ってますし、それに対してやはり精いっぱい、県の関係する高校であっても協力していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

これは市長、二者択一の選択じゃないですよ。学級維持を求め、それでだめだとしても魅力ある学校づくり、これはやっぱりずっと1つのテーマですからね。ただ、降って湧いた今回のことに対しては、糸魚川の長として市民の声をやっぱり伝えていただいて、あまりにも急過ぎますということとを、やっぱりしっかり伝えていただきたい。

次の項目にちょっといきたいけど、気になるのが11番、一連の不祥事や学級給食の異物混入など、危機管理能力に疑問を持つが大丈夫なのかということなんですけど、これまた新たな異物混入事件、ございませんでしたか、給食の。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

2学期に入りまして糸魚川東小学校において、毛髪が御飯の中から見つかったという事案だとか、それから「Aひすい」のほうで炊いている糸魚川中学校、糸魚川小学校、大和川小学校の米の中に、精米機を掃除したときに出了た塗装膜みたいなものが米の中に散らばってしましまして、それが取り除き切れなかったということで、急遽、御飯の炊き直しをして配達がおくれたと。給食の時間が小学校で1時間、中学校で2時間おくれたという事案も発生いたしました。この点については、また次回、今総務文教常任委員会の中で、詳細に報告をさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

これで通算何回目で、その期間というのは最初から今回までどのくらいあるわけですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

最初が5月の下旬ぐらいから

○20番（古畑浩一君）

26日。

○教育次長（竹之内 豊君）

失礼しました。5月26日から以降であります。

総合計の件数については、すみません、ちょっと今、資料を持ってきておりませんので、申しわけございません。

○ 20番（古畑浩一君）

議長、暫時休憩願います。

○議長（倉又 稔君）

暫時休憩します。

午後2時57分 休憩

午後3時00分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

白嶺高校の学級減と人口対策についての資料は一通り用意してきましたが、その中にありました給食の異物混入、これの資料を手元に用意してこなかったことにつきまして、混乱させましたことを大変おわび申し上げます。

学校給食の異物混入であります。1学期につきましては、糸魚川中学校で1件、青海中学校で6件、磯部小学校1件、大和川小学校1件の1学期では9件。それから2学期に入りまして、米飯給食の遅延が1件、それから東小学校における異物の混入が3件、2学期に入りまして4件、計13件とアレルギーによる事故が1件、以上14件であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○ 20番（古畑浩一君）

多発するというか、連発すると言いますか、多過ぎですね。その間、再発防止に対して、どのようなことを指導されてこられましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

それぞれの事案ごとに、その異物が何であるか。それから混入の経路が、こういった経路で混入したかというものを調査をし、それぞれの考えられる経路ごとに対策を立て、その対策を実行するよう周知してまいりました。また、同種の事案が他の学校で同じようなことが発生しないように校長を通じたり、それから調理員の研修会で指導したりということで対策をとってまいりました。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

教育長、その対策は功を奏しておるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

実際に指導後も案件が起きてしまったということから考えていくと、対策が万全ではなかったということは言えるかと思います。今後、ますます力を入れて対策に取り組んでいきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

これ問われるべきは責任の所在です。何度も言ってきましたけど、1個、1個とればたわいのないことでも、これだけ連発するとゆゆしき事態ですよ。再発防止も言ってきましたけど効果がない、この責任はどなたがとられるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

実際に教育現場で起きている事柄ですから、最高責任者の私にあると思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

私もそう思います。ただ、今までは個々の分野での責任であるという答弁であったけども、今、教育長たる私の責任であるとはっきり申し上げた。だったら私は教育長として、しっかりと私は陳謝すべきだと思うんですよ。今回の一番最近のものは、私が通告書を出した後なんですよ。まさかこんなにまた新学期早々出ると思わなかった、4件も。それについては陳謝すべきじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

7月25日に調理員等に対する指導を行ったんですが、残念ながらまたこのような件が4件続いてしまったということで、教育長として非常に責任を感じております。本当に申しわけありませんでした。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

そこから始まらないと何事も進まないと思います。

この件については、今後、総務文教常任委員会できっちりとやるそうなので、そちらのほうで、またしっかりとやっていただきたい。

市長、この件についてコメントいただきたい。1つは、もうちょっとゆゆしき事態ですし、アレルギーによって子供の命まで危ぶまれる結果になった。その後、やっぱり返し方等に、私、問題あったと思うんですけどね。市長、教育の現場の最高長は教育長ですけど、やはり行政の長としての市長、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々は0歳から18歳までの一貫教育という捉え方は、やはり子供は市の宝というつもりで進めてまいっておるわけであります。その子供たちに本当に異物を混入する給食を出したということは、非常に責任を感じておる次第であります。

私もその改善策、また、その対応を見させてもらう中で、これで大丈夫かなという気持ちもあつたんですが、また図らずもこういう形になったということで、非常に責任を感じております。私からも、やはりその辺の対策をしっかり自分自身もとっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。失礼しました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

やっぱり危機管理能力を発揮していただきたい。最近、ちょっとやっぱりおかしいですね。長としてしっかりお願いいたします。

最後になりますが、糸魚川白嶺高校に対する唐突な学級減、受験生だけの問題ではなく、人口問題にあえぐ糸魚川市として大きな問題として捉えるべきです。ぜひ白嶺高校に対する学級減、方針発表からわずか3カ月で決定するという、反対する暇も与えない早急なるもので、とても計画行政と呼べるものではありません。

糸魚川を担う子供たちの未来のために、糸魚川市を守るために、郷土を担う人材を確保するため

+

白嶺高校の学級維持、いま一度、新潟県に強く要望していただきますよう心からお願いして、質問を終わります。

○議長（倉又 稔君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩をします。

再開を午後３時２０分といたします。

午後３時０７分 休憩

午後３時２０分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。〔６番 保坂 悟君登壇〕

○６番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき１回目の質問を行います。

１、０歳から１８歳の一貫教育を推進する系魚川市による市内県立高校の魅力づくり側面支援について。

(１) 系魚川高校の魅力づくりについて。

人口減少問題は大学存続の上で大きな課題であります。そこで、一番近い上越教育大学と連携し、（準）附属高校化を目指してはどうか。

進路別学習支援制度を設けてはどうか。

市長杯「学術系成績コンテスト」を導入してはどうか。例えば英語力、英会話力、計算力、漢字力、クイズ力、科学研究力など学術系の成績で全国レベルの成績獲得者に表彰を行い、向学心を育てる取り組みはどうか。

(2) 糸魚川白嶺高校の魅力づくりについて。

市では県要望されたとおり、ジオパークを中心にジオ学・観光学・防災学の導入をより具体的に推進してはどうか。

地元産業と連携した新しいビジネス振興支援策はどうか。

市長杯「商工農林産業系成績コンテスト」を導入してはどうか。

地域の伝統文化に係る課外活動の支援はどうか。

(3) 海洋高校の魅力づくりについて。

海洋高校と東京海洋大学との連携推進支援はどうか。

市長杯「海洋水産業系成績コンテスト」を導入してはどうか。

2、身近な定住促進戦略について。

(1) 糸魚川市政労使会議（仮）の設置について。

雇用の維持と創出、ミスマッチ解消のために必要と思うがどうか。

(2) 若者チャレンジ応援事業（仮）の実施について。

若者が夢を実現するための「チャレンジ」に、市が助成金を支給し、地域で実践してもらう考えはどうか。

(3) 安心安全な生活環境整備について。

ドクターヘリの上越エリア配備の取り組みはどうか。

子どもや女性のために防犯カメラの設置支援はどうか。

防犯強化のため街灯設置の支援拡充はどうか。

過去に交通事故があった場所について、事故防止のためカーブミラーの設置やカラー塗装など、積極的に整備をしてはどうか。

(4) 自然環境の整備と魅力づくりについて。

海や川の水質環境はどうか。

海岸や河川、山林における動植物の安全対策はどうか。

久比岐自転車道をはじめとして地域内の農林道を活かし、サイクリストやランナーが楽しめる日本一のスポーツロードを目指した整備はどうか。

3、女性の定住促進策について。

当市の若い女性の定住率は低い状況であります。若い女性の意見や考えを積極的に取り入れることと、女性が住みやすい環境づくりを行うことが急務であります。そこで以下の点を伺います。

(1) 糸魚川市女性会議（仮）の設置について。

女性による女性のための意見や提案を行い、議論を深める組織機関を設置すべきと思いますがどうか。

(2) 「女性を日本一大切にすまち糸魚川」（仮）宣言について。

市長は若い女性の定住のために、ゆるぎない決意と情熱を持ってこの方針を示すべきと考えますがどうか。

(3) 「女性活躍推進法」の取り組みについて。

自治体の女性採用率や管理職の採用率の目標設置と公表が義務付けられております。市はどのように取り組まれるのか。

(4) いといがわ男女共同参画推進プラン（平成19年策定）について。

同プランの進捗状況と先ほどの「女性活躍推進法」との整合性はどうか。

(5) 定住促進を促す子育て支援について。

子どもインフルエンザ予防接種費用助成、ブックスタート、学童保育時間延長の検討状況はどうか。

4、北陸新幹線開業後の諸課題について。

(1) テレビ電波障害と騒音問題解消の進捗状況について。

沿線住民の意向を尊重した形で調整が行われているか。

問題解消のスケジュールはどうか。

(2) 北陸新幹線開業の経済効果の把握について。

市は投資対効果を調査していく必要があると思いますがどうか。

新規事業所の開設や起業・廃業など市内の変化はどうか。

(3) 路線バスと高速バスの効果や影響について。

市としてバス運行について、生活の足として、観光振興の手段として、どのような形にしていく考えか。

(4) 大系線とえちごトキめき鉄道（新駅含む）への効果や影響について。

市として在来線の運行については、生活の足として、また、観光振興の手段として、どのような形にしていく考えか。

(5) 当市の観光誘客効果と外国人観光客の動きについて。

観光客受入れメニューの現状はどうか。今後の展開はどうか。

(6) ジオパルの活用策について。

系魚川市の新名所として期待をしておりますが、今後の展開はどうか。

5、系魚川市と第三セクターとのかわりについて。

(1) 能生町観光物産センター（三セク）内の裁判について。

裁判で和解が成立し、7月1日より改善すると報道がありましたが、店舗配置等の改善状況はどうか。

筆頭株主である系魚川市として、裁判とその和解経過について、市民への説明と報告が必要と思いますがどうか。

(2) 市長が社長を退任できた理由について。

合併後、歴代建設産業常任委員長と平成24年の系魚川市行政改革推進委員会より「市長が三セクの社長であることは好ましくない」と指摘され続けてきました。この度、社長の交代が実現し、運営の健全化が1つ進み大変喜んでおります。筆頭株主である系魚川市として、その経過について市民へ説明と報告があってしかるべきと思いますがどうか。

(3) 50%出資している三セクにおける系魚川市の役割について、市は施設運営の「見える化」を図り、第三者が見ても公平公正なテナント運営を行うように筆頭株主としての考えを

この際、表明しておいた方がよいと思いますがどうか。

以上で１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

１番目の保坂議員からの３校に対する支援策につきましては、それぞれ学校の魅力づくりを高めるための手法の１つかと思っております。

少子化の中で学校の生き残りを意識して、生徒にとって魅力ある学校づくりを進めるため、主体である各高校が、今後、どのような学校づくりを進めていくのか。高校、県教育委員会と協議をしながら各校の取り組みに対して、さらに市が支援をできることを検討してまいりたいと思っております。

２番目の１点目につきましては、既存の雇用促進協議会をはじめハローワーク、経団連など、関係機関とのさらなる連携を強める中で対応してまいります。

２点目につきましては、若者の夢の内容により検討してまいりたいと考えております。

３点目の１つ目といたしましては、当市と妙高市、上越医師会、糸魚川医師会が５月に県知事宛に、上越地域へのドクターヘリ配備について要望いたしております。

２つ目につきましては、プライバシーの問題や設置要件などを精査する中で、検討してまいります。

３つ目につきましては、現在、地区が設置する街路灯について設置費用の一部を補助しており、拡充は考えておりません。

４つ目につきましては、警察、道路管理者、交通安全協会と協議の上、安全施設の整備を進めてまいります。

４点目の１つ目につきましては、毎年実施いたしております公共水域の水質調査結果からも、良好な環境を保っております。

２つ目につきましては、有害な動植物も一部地域で見られることから、そのような場所へ入られる方への注意喚起等を続けてまいります。

３つ目につきましては、グランフォンド糸魚川のダイナミックなコースや久比岐自転車道を基本として、環境整備に努めてまいりたいと考えております。

３番目の１点目につきましては、女性の意見や提案などが政策等に反映できるよう、各種審議会等への積極的な女性登用を推進してまいりますので、新たな組織の設置は予定いたしておりません。

２点目につきましては、若い女性の定住促進に努めてまいります。宣言までは考えておりません。

３点目につきましては、雇用主として法の趣旨と国の施策方針に沿って行動計画を策定してまいります。

４点目につきましては、男女共同参画プランの行動計画の実績を毎年検証しておりまして、平成２８年度に見直しを行い、女性活躍推進法との整合性を図ってまいります。

5 点目の子どもインフルエンザ接種費助成につきましては、これまでの対象者に中学 3 年生と高校 3 年生及び妊婦を加え、今年度から助成したいと考えております。

ブックスタートにつきましては、現在、子ども読書活動推進計画策定委員会で審議中であります。

学童保育時間延長につきましては、18 時以降の利用希望がある児童クラブから、来年度以降、実施について調整してまいります。

4 番目の 1 点目につきましては、電波障害の申し出により改修工事を進めているところであります。

また、騒音対策につきましては、鉄道・運輸機構が 2 次測定を実施いたしており、基準値を超える家屋については、対策を進めていく計画となっております。

2 点目の 1 つ目につきましては、乗降客数や入り込み客数、宿泊者数などの把握に努め、継続的に調査していく必要があると考えております。

2 つ目につきましては、ビジネスホテルの建設やピアタウン青海への出店などがありました。

3 点目につきましては、地域住民の交通確保を目的といたしておりますが、観光振興へもつなげていきたいと思っております。

4 点目につきましては、地域住民の利用促進と利便性の向上を図るとともに、大糸線や日本海ひすいラインで楽しめる景色、見どころを生かしてまいりたいと考えております。

5 点目の観光誘客効果につきましては、市内の主要施設の入り込み客数は伸びており、新幹線開業による効果が出ているものと思っております。今後もジオパークの資源を活用した受け入れメニューなどにより、体験交流及び体験教育旅行の誘客促進に努めてまいりたいと考えております。

外国人観光客につきましては、インバウンド推進委員会と協力をいたしまして、誘客活動を行っております。

6 点目につきましては、ゴールデンウィークまでの間、集中的にジオパルを使用したイベントを実施してまいりました。今後とも鉄道ジオラマ等を利用したイベントを実施し、情報発信、誘客宣伝に努めてまいります。

5 番目の 1 つ目につきましては、和解に基づき店舗配置等が行われるものと考えております。

2 つ目につきましては、和解の内容につきましては和解条項の中で、第三者に口外してはならないこととなっております。

2 点目につきましては、6 月市議会の一般質問の中で詳しく答弁させていただいたところであります。

3 点目につきましては、会社が定める方針と責任によって対応すべきものと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6 番（保坂 悟君）

1 番目からお願いいたします。

まず、1 番目の県立高校の魅力づくり側面支援であります。

まず確認なんですけども、0歳から18歳の一貫教育は、全国からも注目されております。議会議員の視察もふえているそうであります。地方創生の総合戦略のメニューにはっきりと、この魅力ある高校づくりを明記すべきと思うんですが、その点、先ほど市長の答弁からすれば可能かと思うんですが、その辺いかなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

0歳から18歳の一貫教育ということで、多くの自治体の方々から興味を持っていただき、視察をいただいております。今ほどのお話にありましたように、地方創生の総合戦略について、今、特色ある学校づくりということについて記述を考えている、検討している最中でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

そうしましたら検討のまた参考にしていただきたいと思いますし、少し提案の質問のようになりますが、聞いていただきたいと思います。

まず、糸魚川高校についてであります。今回、上越教育大学との連携強化という提案をさせていただきました。全国に国立大学の附属高校は17校しかありません。北陸、信越では、金沢大学に1つしかありません。また、県立高校で英語力や国際教養、科学、数学などに力を入れている学校はたくさんあるんですが、県立高校と国立教育大学が直接連携するというケースはないと思っております。

しかし、この人口減少時代に学生を地域で確保し、地域の学術拠点となる大学や高校を存続させるためには、これまでの常識や概念を壊して、新しい価値、創造をして共存共栄を図るべきと私は考えております。そこで県内外の教職員を目指す中学生が糸魚川高校に入学すれば、上越教育大学との太いパイプにより学生や院生、教職員からさまざまなアドバイスを受けられるようにし、大学側は糸魚川高校の中でモデル授業や研究授業を行い、アンケート調査を行うなど、教育研究資料を得られるようにして、この準附属高校化というものを、ほかではないんですけども、あえて糸魚川市は挑戦すべきかなと思っているんですが、こういう考え、また、こういう可能性について、市としてはどのように捉えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

先ほどの市長答弁にありましたように、大変魅力づくりを高めるための手法の1つというふうに

考えております。各高校がどのようにこれについて考えていくのかということについても、今後、糸魚川高校に今回の件について情報提供し、一緒に話し合ってもらいたいというふうに思っております。

市内の中学校1年生は、上越教育大学に大学訪問をしておりますし、昨年、私、糸魚川高校に、学校に勤めようというお子さんたち、生徒たちに、学校ってこういうところだということを話をし、てまいりました。そういったところで生徒たちのキャリア意識を高めるということも、協力をさせていただいているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

想像以上に、前向きな答弁をいただけたかなというふうに思っております。ありがとうございます。

じゃあ続きまして、上越教育大学との連携を目指す理由には、やはりこの糸魚川市の施策、つまり0歳から18歳までの子ども一貫教育というものがあり、日本一の子どもづくりを目指しているというところに着目いたしました。糸魚川市単独で、この日本一の子どもづくりというのは、正直、難しい面もあるかと思います。

そこで糸魚川市と県立の糸魚川高校、上越教育大学、国立、つまり国・県・市の三位一体になった、この教育連携システムというものを構築することで、全国的にも県下的にも魅力のある、日本一の子どもづくりに取り組む教育システムというのできるんじゃないかと。そういう視点もございいますので、ぜひその三者で一度検討していただきたいんですが、その辺、さっき少し話がありましたけど、その三者でちょっとこういう検討という部分については、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

今ほどご提案をいただきましたので、まず、糸魚川高校に、こういった提案があったということをお伝えをしようと思っております。また、大学については、今度、大学との地域連携を考える会議というのが、毎年、行われておるんですが、それに毎年、出席させていただいておりますので、そういったところでも、こんな提案があったということについて、情報提供させていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

今回、こういう提案をさせていただいたのは、これまでのちょっと教育委員会の答弁の中で伺っていたのは、県立高校だから、なかなか手が出せないような答弁をずっといただいております。

ただ、きょうに関しては比較的、この魅力づくりについて前向きな答弁をいただいているもんですから、私もちょっと気持ちよく質問させていただくとるんですけども、なぜこの高校の魅力づくりにこだわるかといいますのは、現実問題として、海洋高校に県外からの生徒に来ていただいているわけです。それにはちゃんと理由があります。逆に、高田高校や直江津中等教育学校に、毎年、糸魚川の子供たちも通っていることも事実であります。

その理由は何かと。また、ほかにも野球などのスポーツに実績のある子供が、市外、県外の私立高校に入学しております。その理由は何か。結局のところ、子供たちの目標や希望にかなった高校が地域にあるか、ないかという、これが極論だと思うんですね。であるならば、やっぱり魅力のある高校というものが地域にあれば、逆にそれは地方創生にもつながるし、地域活性化にもつながるし、また、子供たちとのかかわりを持つことによって本当の意味でのふるさと、自分の培ってきた場所というふうになると思うんですね。

そういう意味で、ちょっととっぴな提案かもしれませんが、これぐらいのことを取り組んでいかないと、本当の意味での地方創生であったり、高校の魅力づくりができないというふうに思いまして、今回、提案させていただきました。どういう反応が返ってくるかわかりませんが、ぜひその三者協議をやっていただきたいと思います。

続きまして、今度は 進路別学習支援制度であります。市は情熱を持って高校と、高校生が求める支援を積極的に側面支援していただきたいと。具体的には、もう既に高校で行われているんでしょうけども、模擬試験や受験勉強のサポート支援、また、高校側が希望する学校の周辺の環境整備の支援など、県立とはいわず魅力ある高校づくりの形として、こういった学習支援とか環境整備にも力を入れていただきたいんですが、そういった考え方はいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

進路別の学習支援ということですが、糸魚川高校でも現在、学習支援につきまして進路指導をとっても一生懸命にやっております。そこにおいて、市としてどんなふうなお手伝いができるのか、支援ができるのかということについて、糸魚川高校とまた相談をさせていただきたいというふうに思っております。教育委員会としては、できる支援は行いたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ちょっと質問で、各3つの学校に全部市長杯、○○コンテストというふうに書かせていただいたんですが、一括して質問します。

この項目は3つの高校に共通しているんですが、高校生が個人や団体で取り組んでいるもので、糸魚川市長から見て、これ特に評価できるな、糸魚川をアピールしてくれてるなという生徒に対して、きちんと表彰状なり商品券などを贈呈して、評価をしてあげていただきたいと。できれば市役

所か各学校に一角スペースを設けていただいて、頑張ったあかしとしてネームプレートで記録も残してあげてほしいと思うんですね。

それはなぜかといいますと、将来、大人になって家族を持ったときとか、自分の子供を連れて、またそのプレートを見ていただくという。そういうふるさとの教育というか、そういうところの思いを強くするために、こういった取り組みをぜひやって、評価をしていただきたいんですが、県立とはいわず糸魚川市として、市内の県立高校で頑張っている子、どんな分野でもいいから評価していくという取り組みをぜひお願いしたいんですが、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

市としてのコンテストということについては、教育委員会としては今のところは計画にはございませんが、各学校では漢字検定や英語検定、数学検定ですとか、そういった検定に挑戦をしておりますし、海洋高校ではダイビングの資格ですとか、それから白嶺高校でもワープロ検定ですとかというような、いろんな公の資格、それからまたいろんなコンテストにも挑戦をしておるところでありますので、そういったところで優秀な成績をとっている生徒さんたちにとっては、日本国内で認められる級というのが出てくるわけでありまして、内申書にも書けるわけでありまして、そういったところで自身を深めて、高めていってもらえるものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、高校の中では県レベルだとか、全国レベルというのがあるわけでありまして、それに匹敵するようなものでないかという評価しても喜んでもらえないだろうと思うわけでございますので、その辺をどういうものでできるのか、これは3校でまたあろうかと思うわけでありまして、その辺を考えた中で、もしそういうものができるとしたら、やはり市としてみんなで評価をしてあげて、記念になるような形にもっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ありがとうございます。

要は、なぜそこまでこだわるかというのは、やっぱり糸魚川市は0歳から18歳というふうになつておりますから、やっぱり小・中学校で頑張ってる子、糸魚川市の高校に通っている子供たちについても、しっかり糸魚川市はバックアップしてるんだ、見守っているんだというアピールにもなると思いますので、ぜひ前向きに捉えていっていただきたいと、これは要望とさせていただきます。

す。よろしくお願いいたします。

次に、今度は糸魚川白嶺高校の魅力づくりであります。

市は新潟県に要望されたとおり、ジオパークを中心に魅力づくりをすることを表明したというふうに伺いました。私はこの行動自体は高く評価しております。

そこで過去の一般質問で提案したとおり、白嶺高校においてはジオ学、観光学、防災学の導入を、より具体的に推進すべきというふうに思っておりまして、できましたらこの防災学においては防災士の養成コースの設置とか、また、防災学でいうと気象の研究、災害の研究、防災、防備等の研究。あとは将来、職業観になります。消防士、警察官、公務員、建設業等の関連業種との連携など、こういったところを少しちょっと研究していただきたいんですが、その辺の考え方、防災学の学科についての考え方はいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

県では、魅力ある高校づくりプロジェクトということを展開しておりまして、オンリーワンステップアップ事業の中で、オンリーワンスクール・ステップアップ事業というものを実施をしております。海洋高校はそれに組み込んでおられ、成果を上げているところであります。こういった県の事業等も参考にして、白嶺高校が魅力ある取り組みを実施するということは、とてもいいことかなというふうに考えております。

今、ご提案のありました防災についての取り組みについて、1つの大きな特色かと思えます。議員の提案につきましても、白嶺高校の校長に情報提供していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

校長先生というよりも、多分、今度は県とかに申し入れになるかと思うんですね。校長先生が、多分、一存で学科の創設はできないと思いますので、県との協議をお願いします。

次に、この観光学、これも同様ですけども、観光学についてであります。建設産業常任委員会で視察をいたしました、和歌山県の熊野ツーリズムビューローという公社があります。糸魚川市もやはりジオパーク、また観光という、また外国人誘客等々いろいろ考えた場合に、そういった糸魚川市観光ビューローみたいなものをつくるという前提で、またそこで働くスタッフを、できればこの白嶺高校で育成していくっていう、そういう大きなビジョンをぜひ考えていただきたいなと。

具体的な内容としては、やっぱり英語力、国際感覚の養成、プレゼン力、あとアクティビティーのインストラクター、例えばスキーだとか、ラフティングだとか、ダイビングだとか、そういったもののインストラクターの力。あとはやっぱり旅行取扱主任者資格等の資格も持って、あと地域の伝統文化の継承、またそういったものを観光化に結びつけるような取り組みというものをやっていただきたいんです。

これを高校にやってくださいと言っても到底無理な話で、やっぱり糸魚川市とプロジェクトとして、そういう観光に力を入れたまちづくりをしていく上で、白嶺高校にもこの部分を担っていただきたいなど。それを県にも協力をいただき、地方創生につなげてそういう取り組みをしてもらいたい。こういう考えなんですけども、ぜひそういった、今の段階ですと相談というか、協議をする段階しかできないかもしれませんが、ぜひその行動をとっていただきたいんですが、その辺いかなうものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

この白嶺高校の魅力づくりにつきましては、先ほどの古畑議員の答弁の中で、具体的に市長のほうから高校のほうに提言をいたしまして、高校のほうでも非常に前向きな検討をするという力強いお言葉もいただきました。まずは学校のほうでどういったコースが考えられるかというものを組み立てをしていただきまして、そこに当市としてどのような支援ができるかというものを具体的に定めて、また県教委のほうに支援を要請していきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ぜひよろしくお願いいたします。

次に、番を飛ばしまして 番ですかね、地域の伝統文化に係る課外活動の支援ということであり、先ほどの観光学科に関連するんですけども、やっぱりこの地域の伝統芸能を継承するためには、各いろんな団体が存続をしようということで取り組まれてはおるんですけども、そろそろ市全体でこういった継承を、仕組みというかシステムをつくって、継承していくような時期にきてるんじゃないかというふうに考えております。

前例とすれば、佐渡市に県立羽茂高校というのがありまして、全国でも珍しい民謡「佐渡おけさ」を中心とした郷土芸能部というものがございます。一時は衰退したそうなんですが、現在では校内で最も人気のある部活となっていると。

糸魚川には天津神社、白山神社、山寺のおててこ舞など神楽みたいなもの、芸能がありますし、あと太鼓のグループもあります。あと地域には盆踊りという文化もしっかり根づいております。こういった芸能を存続させるもし部活動ができるのであれば、積極的に市も応援していただきたいですし、特に白嶺高校に関しては、この市民会館が近くにあるということで、音楽、ダンス、演劇も含めて、こういう文化、芸能にちょっと力を入れる支援をしていただければ、また学校の魅力づくりになるかと思うんですが、その辺の考え、また相談をしていただきたいんですが、いかなうものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

現在、白嶺高校で、地域の伝統文化に係る地域講師を招いての課外活動ということは実施をしておりません。今回、ご提案がありましたので、それについてもまた情報提供していきたいと思っております。今まで高校との情報提供の機会がなかなかなかったんですが、今年度から情報提供をする機会を設けましたので、そういったところで確実にお伝えをしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

提案ばかりで申しわけございません。

続きまして、3番目、海洋高校で魅力づくりであります。

海洋高校の出身の東京海洋大学の卒業生をふやすことが、今、推薦枠の確保につながるという話を伺いました。毎年、少しずつでも合格者をふやせるように海洋高校に頑張っていただきたいんですが、もし必要であれば、そういったところに対しても学習支援とか、協力も糸魚川市で行っていただきたいんですが、ちょっと戦略的に東京海洋大学の枠を太くしていきたいというふうに私は考えるんですが、その辺の協力、連携の考えはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えいたします。

現在、海洋大学との連携ということにつきましては、海洋高校では実施をしておりません。ですが進路の1つとして、生徒にはこういう学校があるということについての情報提供をし、進路指導は行っているというふうに伺っております。ですから現在のところ海洋大学への進学ということは、実績としてはないというのが現実でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

せっかく海洋の専門の高校であります。この学校に入ればそういう枠があって、進学もできるという道をやっぱり開いていくべきだと思うんですね。だからそういうことで、もし高校と糸魚川市と連携してそういう人材も輩出していけるように、少しちょっと検討いただければというふうに思います。要望とさせていただきます。

続きまして、糸魚川市が支援しているシーフードカンパニー能水商店についてであります。これはもうまさしく、地方創生の私はモデルケースというふうに思っております。学校や生徒の迷惑

+

にならない範囲で行ってほしいんですけども、行政主導で国や県、市町村議会、または商工会議所、各協同組合等、あと実業高校等に対しても、海洋高校のこの取り組みというものをアピールしていただきたいですし、場合によっては視察として見ていただきたいというふうに思っているんですが、高校にそれをお願いすると、非常に負担をかけてしまうものですから、できれば糸魚川市でそういうコースといいますか、視察コースみたいなものを設定して、高校に迷惑をかけないような形でそういう取り組みをして、海洋高校を全国にアピールしていただきたいんですが、そういった取り組みはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

シーフードカンパニー能水商店につきましては、この４月に食品加工場の火入れ式をしていただいて、その後、本格的にクラブ活動として展開をしていただいております。８月につきましては最後の一滴が、月産２，０００本というふうな数量で販売が進められてきているという状況でございます。そのような活動につきまして、先般、市長、それから教育委員会、それから中村県議にも中間報告として、今までの活動の報告をさせていただきまして、それらにつきましても報道していただいているところでありますし、また、テレビでも取り上げていただいているところであります。

今、ご提案のようにコースを設けて、もう少し幅広くＰＲするべきでないかというところにつきましては、また海洋高校のＯＢ会の皆さんとも話をし、ぜひそのように全国発信していきたいというふうに考えております。

それから海洋高校につきましては、最後の一滴ばかりでなくて、真昆布も養殖をしております。真昆布につきましては、もう既に北海道大学の水産学科との連携も取り組んでおりますので、海洋高校は大学とも連携して事業展開しているところだけ、少し触れさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○６番（保坂 悟君）

大変ありがとうございます。

夢みたいな話になるかもしれませんが、私の中ではやはり建設産業常任委員会で視察に行った和歌山県の相可高校の高校生レストランというのが、どうしても１つの目標になっておりまして、ぜひこの海洋高校が頑張っていて、また糸魚川市も協力していただいて、マリンドリーム能生か、もしくは糸魚川の新幹線の駅とか、場合によっては高速道路のサービスエリアとかに、できれば出店できるような形態にならないかなというふうに夢を描いております。ぜひやっぱり実績といいますか、結果を残していかないと、なかなかそこまでいかないのは私もわかっておるんですが、ぜひ地域を挙げて、この海洋高校の能水商店、また、ＯＢ会の人たちの心意気というのも非常に感じておりますので、ぜひ糸魚川市も全面的に協力をお願いしたい。これは要望にしておきますので、よろしくお願いいたします。

次に、２番のほうに移ります。

身近な定住促進戦略であります。

今回、糸魚川市政労使会議（仮）ということで提案させていただきました。

これはちょっと規模は大きいんですけども、リーマン・ショック後に経済立て直して、神奈川県が取り組んだ事業であります。やはり最大のこの会議の目的は、地域の賃金を上げることが最大の目的であります。さらに言えば、若者の賃金を上げるにはどのような手法があるか。また、県や国に対して、どのような施策を要望するかなどを検討する会議にしていきたいと思っております。

ほかにも離職、転職者を対象にした職業訓練のメニューのあり方、要は現状の課題に合った職業訓練のメニューになっているのかどうか。また、長時間労働の改善も含めて若者世代の安定的昇給、または子育て世代への重点的賃金配分といったものも会議をして、この糸魚川市の雇用形態、賃金形態というものを真剣に考えて、人材をこの地域にとどめ置く、またはほかから連れてくる、そういう会議を起こしていただきたいんですが、これまでやってきたことがいけないというのではなくて、さらに輪をかけて具体的に、この市にはこういうことが必要なんだというものを、お互いに共通認識を持った取り組みをできるような会議を創設していただきたいんですが、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

政労使の会議につきましては、国レベルでは平成25年の6月に設立をされておりまして、経済産業省、財務大臣、それから厚生労働大臣、それから経済界の代表、労働界の代表ということで設立をされて、経済の好循環の実現に向けてということの取り組みをしていただいとるわけでありま

+

す。
先般、8月30日のNHKの「日曜討論」の中でも、地方版の政労使の会議が話題になっているというふうにお聞きしております。我々は今回、地方創生総合戦略の中で産官学金労言、いろんな団体との意見交換をさせてもらってきております。その延長線で、今、議員のご提案があったような話も関係団体と意見交換しながら、高めていく必要があるんでないかなというふうに考えておりますが、ご提案の政労使会議というものにつきましては、今のところ既存団体との連携を進めていくということで、設置の考えは今のところはございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

そういう意味では、会議設置にあえてこだわりませんわ。その機能といいますか、今、言った具体的な糸魚川市の地域に根差した雇用のあり方、賃金のあり方、または若者から見て魅力のあるそういう形態というものを目指すのであれば、それは今の既存の組織機関でやっていただきたいんですが、ただ、そのやったことをまた見えるように、ぜひしていただきたいと思います。

次に、若者チャレンジ応援事業（仮）の実施であります。この若者チャレンジというと、普通、

大体ビジネス、事業を連想するかと思うんですが、私、今回の場合は、ここではビジネスだけではなく芸術、学術、観光、芸能、音楽、スポーツ、映像、建築、郷土料理、創作料理、こういったものも含めて市内でチャレンジしてみたいんだと、ここには記しませんでしたが、空き家を使って、ここで骨を埋める覚悟でやってみたいんだとか、そういう方がおられたら、ぜひ応援していくシステムをつくっていただきたい、また、PRもしていただくシステムをつくっていただきたい。そういう思いで今回提案しているんですが、いま一度、この辺の考え方は、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

今回の戦略プランの中でも、若者の力というのが大事になってくるというふうに認識しております。今回の若者の関係ということで、当課でも今年度からちょっと動き出しとるんですけども、若者ワークショップということで、通称「わかちか」と言うんですけども、評論家や何かでやるんじゃないくて行動できる若者を集めて、率直な意見交換から初めて、自分がやりたいと思えるまちづくりをやっていただくということを目的とした会議等を、今後、広げていきたいなということで動き出してはおります。

その中で、例えば何かものづくりをしたいだとか、そういうものについては今のところパワーアップまちづくり事業というのがあるんですけども、これは例えば今、10名以上の団体でないといけませんし、それから補助率が2分の1で、ハードとソフトがあるんですけども、そういう支援事業があるんですけども、それに該当するか、しないかということもありますので、その辺については、今後、そういう助成事業について、考えていきたいなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

私も具体的に、こういう方がいて、こうだというものはないんですけども、ただ、そういう受け皿というか、そういうものがあるということをやはり全国にアピールして、糸魚川市ならちょっとおもしろいことができるぞと、そういう雰囲気づくりがまず大事かと思いますので、ぜひそういったアピールをお願いいたします。

次、（3）番の安心安全な生活環境にいきます。

ドクターヘリの要望はされてることは重々知っておるんですが、その進捗状況といいますか、感触について、もしおわかりであれば、ぜひお伺いしたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

私どもが要望を出した後に、新聞報道もありましたように8月6日に、基地病院選定の委員会が

県の主催で開催をされております。その中では結論が出ず、9月ごろに、再度、開きたいというような情報でなっております。

第1回の会議の中では、上・中越をカバーするということの中で、上・中越地域にございます救命救急センター、3病院があるんですけども、そこを基地病院の候補として、第2回の会議の中で選定をしたいというような情報を聞いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

中越とか上越のほうへいくと、何か長岡のほうが有力だみたいな、少しちょっとそういううわさといいますが、そんな流れも聞いておりまして、そういう危機感をおぼえておりまして、さらに積極的に、ちょっと要望活動をお願いしたいと思います。要望にさせていただきますね。

次に、子供や女性のために防犯カメラ設置のことであります。

過去に5回ほどもう取り上げてきた防犯カメラの件であります。毎日のように次から次へと、女性や子供が犠牲になる悲惨な事件が報道され続けております。また、いじめや家庭内問題などで自殺する事件とか、放火、ひったくりの事件もよく耳にします。これらの犯罪防止の観点と、犯罪抑止の観点と、あと犯人特定の手段として、やっぱり防犯カメラの力は、ますます必要になってきているというふうに認識しております。事件に巻き込まれないように家庭や地域、学校で指導することは当然としても、糸魚川市においてこの防犯カメラの設置数の確認とか、要所、要所に、行政主導で設置をすべきというふうに考えております。

いつもこの質問をさせていただくと、個人情報の観点から積極的な設置は難しいという答弁が返ってくるんですけども、個人情報と犯罪抑止や犯罪防止というものをてんびんにかけるのではなくて、糸魚川市の安全対策として、やっぱり住みやすいまちづくりという観点で、この防犯カメラの設置については、ちょっと積極的に推進していただきたいんですが、その辺の考え、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

防犯カメラにつきましては保坂議員おっしゃるとおり、犯罪抑止という面では非常に役に立つものかなというふうに思っております。

しかしながら、前からご答弁させていただいているように、やはり防犯カメラについてはプライバシーの侵害という面もございます。したがって、公共施設そのものの防犯という面での目的において設置する場合については、当市においては駅と自由通路と待合室等に設置はしてございますが、そういう観点では今後も防犯カメラの設置については、検討させていただきたいというふうに思いますが、防犯全般という観点に立っての設置については、現在のところ慎重に考えていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

いつもなかなか厳しい答弁なんですけども、ぜひやっぱり安全対策という観点で、検討をお願いしたいと思います。

あと防犯強化のための街灯設置の支援拡充であります。今現在も各地域に、このLED街灯には設置の補助をされてるのは重々わかつとるんですが、やはり防犯という意味では少しでも明るく、また、数もふやしていただきたいという地域の要望もございますし、多少なりともちょっと補助率の拡充を考えていただきたいんですが、再度、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

現在、街路灯設置を要望する行政区につきましては、防犯上必要な箇所から優先して設置していただいておりますので、特に新たな要望もございませんので、支援の拡充というのは考えておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

すみません。聞き漏らしたんですけど、要望がないっていうのはどういうことですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

区の方で設置を要望するとき、防犯上必要な箇所を優先して設置をしていただいているということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

設置の要望、ちょっと意味がわからないんですけど、設置の補助率なりの拡充をしていただきたいんですが、それはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

現在の制度でも、特にこうしてもらいたいとか、ああしてもらいたいとかという要望が出てきておりませんので、特に要綱を変えるということは考えておりません。ということは、金額も上げるということは考えていないということであります。

○議長（倉又 稔君）

暫時休憩します。

午後４時１２分 休憩

午後４時１２分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開します。

○建設課長（串橋秀樹君）

大変失礼しました。

街路灯設置補助要綱の中には蛍光灯とＬＥＤの２種類がありまして、設置費の３分の１ずつ補助しておりまして、蛍光灯の場合は上限１万円、ＬＥＤの場合は上限１万５，０００円という制度で、各行政区から申請があった場合は補助金を交付しとるわけですが、その補助金について安いから上げてくれとかという要望が出ておりませんので、現行のままでいいのかなというふうに今現在思っておりますので、要綱の見直しは今考えておりませんということです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○６番（保坂 悟君）

ＬＥＤ、蛍光灯をつけるとき１つ幾らしますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

蛍光灯の場合は３万円弱で、ＬＥＤの場合は３万５，０００円から４万円です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○６番（保坂 悟君）

高いんですよ。負担が大きいんですよ。それは言わないというよりも、多分、言わせない雰囲気があるんじゃないかなと私は思います。もし要望がないと言うんなら各地区に聞いていただきたいんですが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

以後、要望があった申請者、区ですけども、聞いてみたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

要望者じゃなくて各地区に聞いてみてください。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

要望者といいますか設置者でありまして、行政区が設置するということになっておりますので、個人で申請するものではございませんので、要望者ということで行政区だということでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤隆一君登壇〕

○産業部長（斉藤隆一君）

今現在の街路灯等の設置に対する支援拡充についてのご質問であります。

現行、今、建設課長が申し上げたような形で運用しております。補助額を上げる、上げないというのは、これまでの制度の中で、一定の住民自治の中での負担をいただく中で、市も支援してこうというスタンスで、これまで3分の1の今の制度をつくってきたというふうに思っております。

確かに今、町場も含めてでありますけども、中山間地域においては過疎、高齢化という部分もあります。今すぐということではありませんけれども、これらを取り巻く環境の変化もありますので、いただいたご意見については、また部内で真剣に協議していきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ぜひ防犯という観点、または地域には暗いところが多いもんですから、やっぱり少しでもよりよく地域の方も積極的に設置ができるように、そういう配慮をぜひお願いいたします。

次に、過去に交通事故があった箇所について事故防止のためのカーブミラー設置、カラー塗装などの積極的整備であります。これも以前から何度も質問で取り上げて、同じ答弁をいただいております。やっぱり家の周りとか、自分が通勤通学してるところで事故等があると、そこへの危険度というか、危機感みたいなものもふえてきます。であるならばやはりせめて、表現はよくないですけども、事故のあった箇所についてはやっぱり積極的にミラーをつけるとか、注意喚起を促す道路塗装をすとかというのを積極的にやっていただきたいんですが、その辺の考え、もう一度お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

まず、カーブミラーの設置につきましては、各地区からの要望とか聞き取り、道路パトロールの中で地域の要望になるべく応えられるように、交通事故の発生しやすい危険な箇所を中心に、今後とも計画的に設置していきたいというふうに考えております。

それから歩道に相当する路肩がほとんどない狭い路肩の場合、歩行者や自転車の安全対策についてはどうかということで、ドライバーの視覚に歩行者の通行帯を認識させるために、接触事故も防ぐということでグリーンベルトと言いますか、緑のラインを今年度、試験的に、京ヶ峰2丁目の西南、寺町境のところで一部試験的に、今、引いてみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

結論から言いますと、事故があった箇所については少なくとも優先度を高めてほしいと、そういうふうに受けとめていただきたいと思います。よろしくお願いします。

次に、今度は自然環境の整備であります。系魚川市の環境データをいただきました。これをばらばらと見ると、ところどころに網かけの部分がございまして、そこが多分、基準値を超えている箇所なんだと思うんですが、自然豊かな系魚川市をアピールしていく上で、そういった網かけの部分を、ぜひ解消してほしいと思うんですけども、今、これいただいたのは、網かけの部分については解消されているのか、また、これはもう系魚川は自然豊かなところできれいなところなんだよと、もう全面的にアピールできる状況なのか、その辺ちょっと、大ざっぱですけども、確認のためお願いしたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

系魚川市の環境の中で網かけの部分については、議員おっしゃるとおり基準値を超えているという部分を表示してるものでございます。

それで例えば河川の中で、大腸菌群が超えているという部分がございます。これについては特に水量の問題もありまして、今もある程度、やっぱり超えているという傾向にあることは確かでございます。ただし、ほかのBODとかそういうものについては基準値を下回っているということで、一部基準値は、今言った大腸菌群みたいな基準値は超えているところもあるんですけども、おおむね系魚川市の水域の状況は、良好だというふうに認識しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○ 6 番（保坂 悟君）

確認なんですけども、ほかにも臭気だとか騒音とかもあるんですけども、これは今ちょっとした手心で改善できる数値なのか、それとも根本的な問題で、なかなかこれはもう解決できないというものなのか、その辺ちょっと確認のため教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○ 環境生活課長（五十嵐久英君）

その場合、場合というか、ものによってはちょっと違う。環境基準をちょっと超えてるものもありますし、先ほどの大腸菌群ですと数値的には大きいものもございます。また、季節によっての変動もございます。ですから同じ場所によっても、毎年、基準値を微妙に上回ったり、下回ったりということで、ずっとこれが恒久的にこれからも解消できるかということ、その辺はちょっと明言できないという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○ 6 番（保坂 悟君）

私、なぜこんなことをあえて聞いたかといいますのは、自然豊かな市町村って全国にやっぱりたくさんありまして、その中でも際立たせて糸魚川は環境にいいんだと。例えば、ぜんそくをお持ちの方がここに来てもらえると、環境はいいですよというアピールするために、こういうのにちょっとでも網かけみたいなものがあるとマイナスな要素があるんで、もし改善できるのであればぜひ改善していただいて、糸魚川の環境が素晴らしいということを全面的にアピールして、この定住促進を図っていただきたい。そういう思いでこの資料を取り上げたので、ぜひ改善に向けて努力いただきたいと思います。

ちょっともう時間がなくて、たくさん質問項目を挙げてしまったんですが、いろんな提案ばかりでありましたが、またぜひそれぞれについてご検討いただきますようお願いして、私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

○ 議長（倉又 稔君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

午後 4 時 22 分 延会

地方自治法第 1 2 3 条第 2 項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+